
寄世蛾記 96

2000年5月30日



埼玉昆虫談話会

表紙の昆虫

地下世界の王者，ニッコウオオズナガゴミムシ

その姿が地中より現れた瞬間，黒光りする巨大な頭に思わず息をのみました。でかい！そして速い！！地中へと通ずるガレ場の隙間に猛烈な勢いで逃げ去るそのムシを，岩をも砕く勢いで右手の指が追いかける……。

地下の世界で岩の隙間を走りまわるこのムシは，「プテロ」と呼ばれるナガゴミムシ類の王者，ニッコウオオズナガゴミムシ。大好物はなんとガロアムシという贅沢者です。そして，何度出会っても感動が色あせることがない，そんなすばらしい虫です。

イラスト：豊田浩二

埼玉県の台地および丘陵地における マツムシの生息環境について

内田 正吉

1. はじめに

マツムシ *Xenogryllus marmoratus* (de Haan) は古くから歌に読まれ童謡に歌われてきたように、日本産直翅類の中ではスズムシやクツワムシなどとともに最も知名度の高い種であろう。そのマツムシは現在、明らかに減少している種であると考えられる。全国的な分布状況やその動向についてはよくわからないが、少なくとも関東地方では、埼玉県や神奈川県等の県レベルのレッドデータブックに収録されており、減少している種であることがうかがえる。埼玉県における本種の近年の記録は、所沢市の狭山湖堰堤（石澤, 1992）や、新座市の陸上自衛隊朝霞演習地内（牧林, 1997）、江南町押切の荒川河川敷（内田, 1998など）などの数ヶ所にすぎない。

マツムシの生態的な知見は少なく、野外における生態は不明の点が多い。生息環境や生活史を的確に把握し減少の要因を明らかにすることは、適切な保全策を講じる上からも重要な課題であろう。

筆者は1999年の秋に、埼玉県の北西部の台地および丘陵地において直翅類の分布調査をおこない、マツムシの新たな生息地を3ヶ所見出すことができた。これら3ヶ所はすべて溜池のまわりの草地であった。本報告ではこれら3ヶ所における確認データを記録するとともに、その生息環境の特質や本種の生息地が減少してきた要因についての考察をおこなう。

1999年における確認データ

埼玉県の北西部の台地および丘陵地において、1999年に3ヶ所のマツムシの生息地を確認した。マツムシは夜間に発音するので、日中のみの確認は困難である。このため今調査は、本種の成虫出現のシーズンである9月および10月の夜間に自動車によって移動し、その際に聞こえてくる鳴き声によって本種の確認をおこなった。調査した範囲は、県北西部の嵐山町・川本町・寄居町・美里町であり、マツムシの生息が予想される農村地帯を中心に走行した。調査した走行距離は約30kmである。確認された地点では自動車を降りて発音している地点におもむき、確実にそこで鳴いていることを確認するとともに発音している個体数をカウントした。確認者はすべて筆者である。なお、確認された環境は溜池に接した草地という非常に限られた範囲であり、確認された個体数も少なかったため、採集区による個体群の縮小あるいは消失が懸念されるので、詳細な確認場所は省略する。

- | | |
|------------------|-------------------------------------|
| 嵐山町広野（溜池堰堤の法面草地） | : 6♂鳴き声（うち1♂採集）, 4.IX.1999. (fig.1) |
| 川本町本田（溜池周囲の草地） | : 10♂以上鳴き声, 4.IX.1999. |
| 寄居町用土（溜池の法面草地） | : 5♂鳴き声, 2.X.1999. |

確認された環境について

嵐山町においては丘陵地の谷津田の最奥に作られたため池であり、日当たりのよい堰堤の法面草地である。チガヤを主とした乾性草地であり、後日の日中に調査した際には、ワレモコウやツリガネニンジン、ススキなども混じって生えているのを確認した。チガヤ群落は、ススキ群落やシバ群落とともに日本の半自然草地の主要素をなし、1年に数回、地上部が刈りとられる条件のもとで維持される（富永, 1997）。このことから、ここの草地は定期的な草刈りによって比較的安定した草地として維持されていると考えられた（以下、人為的な草刈りなどの攪乱により毎年同じ状態で維持されている半自然草地を、安定した草地とする）。また、ワレモコウやツリガネニンジンが混じっていることも、ここの草地が草刈りなどの適度な攪乱により維持されてきたことを示していると思われる。池の周囲は雑木林であり、池の堰堤から谷津田のあぜに沿ってチガヤ草地が連続していた。しかし、このチガヤを主とした乾性草地は周囲の環境（雑木林や水田、広い

舗装道路など)からは孤立していて、マツムシの生息域もその草地だけであることがうかがえた (fig.2)。

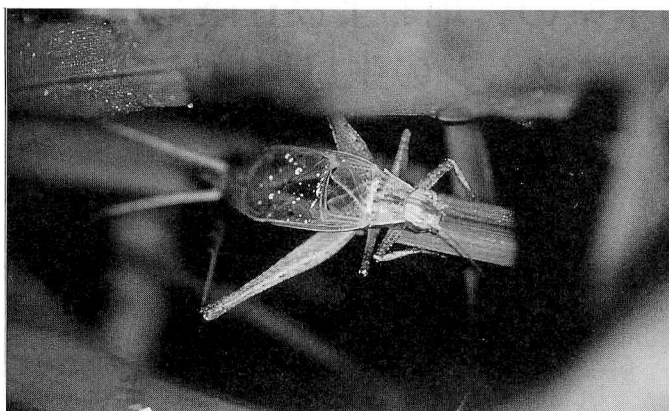


Fig.1: 溜池の法面草地に生息しているマツムシ♂ (嵐山町)



Fig.2: マツムシの生息している溜池堰堤の法面草地 (嵐山町)

川本町においては台地の農村地域にある溜池であり、池周囲の内側の(水面に面した側の)草地で鳴き声が確認された。後日の日中の調査で、この草地はススキやチガヤを主とし、ワレモコウやツリガネニンジン、アザミの一種(ノアザミ?)などが混じる乾性草地であることを確認した。これらの植生から、ここの草地も定期的な草刈りによって毎年同じ状態の草地が維持されていると推察された(fig.3)。池の周囲の環境は雑木林や水田であり、近くには農村集落もあった。ここで生息が確認された草地も、やはり周囲からは孤立した状態であり、マツムシはその溜池の草地にのみ生息していると考えられた。

寄居町においては台地の農村にある溜池であり、池の外側の法面草地で鳴き声が確認された。ここは夜間調査のみで日中の観察をおこなっていないので、植生についてはよくわからなかった。ただし、夜間調査においてマツムシとともにオナガササキリの多数の鳴き声を確認している。オナガササキリはススキ草地に生息するササキリ的一种であり、比較的安定したススキ群落に生息している傾向がある。このことから、ここの法面草地は、ススキを多く含む乾性草地であることがうかがえた。溜池の周囲は畑であり、付近には農村集落もあった。したがって、ここの溜池で確認されたマツムシの生息域も、この法面のみに限定されていると考えられた。なお嵐山町と川本町の両確認地点においても、ともにオナガササキリの生息を確認している。



Fig.3: マツムシの生息している溜池周囲の水面に面した草地 (川本町)

溜池の草地という環境について

今回マツムシが確認された環境が3ヶ所とも溜池の草地であったので、その特性を知るために、溜池の管理方法（草刈りの回数や時期）について文献調査をおこなった。その結果、埼玉県における溜池の研究として、田中(1981)・矢作・栃原(1981)・吉川(1988)・新井(1993)の文献を見ることができた。

しかし残念ながら、溜池の草刈りに関する記述はあまり多くなく、次のような断片的な記述を見出したのみである。矢作・栃原(1981)は嵐山町越畑地区の事例として、「草刈りは水番が樋を抜くのに露で衣服をぬらすため、沼の水を使用する前の5～6月頃共同で草を刈った」と記している。また、比企丘陵地の溜池についてまとめた新井(1993)は滑川町伊古地区の事例として、「聞き取り調査によれば、堤体の草が伸びないようにするために草刈りを年に3回くらい行なう」と記している。また、田中(1981)は、「(堤の)モグラや野ねずみの巣も見つけ次第除去した。そのためにも堤の草刈りはやった。もちろんこの草はその頃は牛馬の飼料や堆肥のもとになったが。」と記している。

断片的ではあるが、これらの記述から、溜池の堤体を維持するために草刈りを年1回から数回おこなってきたことがうかがえる。

里山における半自然草地の存在とマツムシ

今回マツムシの生息が確認された溜池の草地は、チガヤやススキを主体とし、ワレモコウやツリガネニンジンなどが確認されたことから、比較的安定した半自然草地であると考えられる。このような植生から、これらの溜池はそれぞれ地元の農家の人たちによって定期的な草刈りがおこなわれてきたことを示している。前述の溜池管理の文献調査からもそのことが裏付けられる。しかしながら、農業従事者の高齢化やそれともなう耕作放棄地が増加している現在、溜池堤体の管理維持が困難になることは容易に想像できる。法面の草刈りが放棄されれば、植生遷移によって安定した草地がなくなり、マツムシにとって適した環境が失われるであろうことは、容易に想像できる。実際、そのようにして台地や丘陵地のマツムシは次第に減ってきたのであろう。

マツムシの移動能力についてはほとんど未解明であると思われるが、筆者の今までの野外観察

の経験からは、本種の移動能力はそれほど大きくないと思われる。本種が生息しているのは、地表付近の草地内部であり、夜間も草の上部へ出てくることはあまりない。また、驚くと地表際へもぐりこむような行動をし、飛翔して逃げることはない。本種には後翅があるが、飛翔行動はまったく見たことがない。また、本来の生息域から遠く離れた地点にて単独で見出される（あるいは鳴いている）ということも確認したことがない。これらのことから、本種の移動能力はあまり大きくなく、移動は歩行のみによりおこなわれていると考えられる。

ではなぜ、今回の3地点では周囲から隔離された状態で、それぞれ確認されたのだろうか。おそらくは、以前にはマツムシが生息できる環境が、埼玉県の台地や丘陵地にはかなり普遍的に存在していたものと思われる。例えば寄居町桜沢（字中小前田）における聞き取りでは、昔は場所を特定せずにあちこちでマツムシの鳴き声を聞くことができたという。現在は同地域においてはマツムシの生息は確認できていない。

マツムシはススキの枯れ茎の内部に産卵することが知られている（小野，1968）ので、本種がススキやチガヤに強く依存していることは間違いないであろう。また今回の調査からも、マツムシは少なくとも埼玉県の台地や丘陵地においては、定期的な草刈りによって維持されてきたススキやチガヤを主とする安定した半自然草地に生息してきたと考えられる。このような草地は、溜池の草地だけとは限らない。緑肥やウマなどの飼料として採草された採草地や、かやぶき屋根の材料を確保するためのカヤ場としても存在していたはずである。田村(1994)はまぐさ場（秣場）とよばれる採草地の論考の中で、1910年発行の地形図から当時の埼玉県の丘陵地から低山にかけては各所に草地が存在していたとし、「かつて、里山の自然の構成要素として草地が大きな位置を占めていたことがわかる」としている。そしてその植生は、近世の検地帳から「カヤ（ススキ）が優占している草地とカヤ以外の他の草が優占した草地、及び両者が混生した草地」や「ススキ草原にコナラの小樹」などが混生した野があったとしている。本来森林的植生であるはずのところを人為的な採草によって維持されたこのような草地的環境は、マツムシの生息環境を提供していた可能性がじゅうぶんあると考えられる。そして、マツムシは相対的に面積の狭い溜池の草地よりもむしろ、このような採草地が丘陵地周辺における本来の生息地であった可能性が強い。丘陵地周辺におけるマツムシはこのような人為的に維持された草地との結びつきが強かったとするなら、広い意味で里山の昆虫であったといえよう。そして、これらの目的で草刈りがさかんにおこなわれていた時代にはススキやチガヤの半自然草地が各所に存在し、前述の寄居町における聞き取り事例のようにマツムシはかなり普遍的に農村環境に生息していたのではないだろうか。今回確認された地点がいずれも溜池であったのは、現在でも法面の維持管理が溜池の保水管理上必要な行為であるためであり、それが幸いしてマツムシの生存を維持させてきたのであろう。一方、他の環境で確認されていないのはウマの飼養農家やかやぶき屋根などがなくなり、また緑肥としての採草の必要がなくなり、ススキやチガヤの半自然草地が激減（あるいは消失）したためであろう。埼玉県の台地や丘陵地においてマツムシの著しい減少がはじまった時期は、おそらく昭和30年代であると思われる。昭和30年代は農業基本法の施行に象徴されるように、農業の生産構造や農村の生活様式が大きく変化し始めた時代である。それに伴い、農村環境も大きく変化し始めた時代である。

しかし1970年代以前の埼玉県におけるマツムシの記録はほとんどなく、マツムシがどのように減少してきたのかを動態的に示すデータは残念ながら残されていない。間接的な方法ではあるが、各地における地元の人からの聞き取りや、草地的環境が維持されてきた要因の動向（例えばウマの飼養頭数やかやぶき屋根の家屋の変遷）などから、マツムシの減少の傾向をあるていど把握することができるのではないかと考えている。

おわりに

本報告では、埼玉県の台地や丘陵地に生息するマツムシの確認記録に基づいて、本種の生息環境に関する考察をおこなった。本来ならばこのような考察はもっとデータが集まってからおこなうべきであろう。しかし、台地や丘陵地の里山の環境においては、マツムシの生息地がかなり急激に減少していることが予想されたため、わずかなデータに基づくものであっても、問題提起する意味は十分にあると思い、本報告を書いた次第である。そのため、考察というよりも推察の多い記述になった感も否めない。

里山の自然は最近さまざまな分野から、著しく注目されている。そして里山の生態系は、一般的には樹林的环境（雑木林など）や水辺環境（谷津の水田や休耕田など）がクローズアップされている。しかし、それらの環境に比べると、同時に里山に存在してきた乾性草原的な環境についてはあまり注目されていないように思われる。特に昆虫の場合は、植物の分野に比べて、その注

目の度合いは低いといえよう(チョウなど一部を除いて)。直翅類は乾性草原に生息する種が多く、その中には明らかに減少していると考えられる種や、現在の生息状況からみて減少してきたと考えられる種が少なくない。埼玉県に分布している種を例にすると、キリギリスやカヤコロギ、セグロイナゴ、ショウリョウバッタモドキ、クルマバッタなどがこれに該当する。こういった乾性草原性の直翅類については今まで、その生息の現状や保全の必要性についてはあまり論じられてこなかった。しかし直翅類は大型の種が多く、鳴き声や形態などから一般の人々にも親しみやすい昆虫であり、その棲息環境全体を保全する上での指標種となりうる条件を備えていよう。たとえば生息地が減少している地域におけるマツムシやキリギリスは、鷲谷・矢原(1996)の生態的指標種や象徴種に該当する条件を有していよう。里山における生物多様性を保全していくためにも、乾燥草原性直翅類の分布の的確な把握と生態学的な地検の集積が、今後より一層必要とされるであろう。

参考文献

- 新井 裕(1993) 埼玉県比企丘陵地域におけるため池分布. 平成4年度埼玉県長期研修報告書. 11pp.
- 浜口 哲一(1995) 直翅類. 神奈川県レッドデータブック生物調査報告書, pp. 199-205.
- 小松 公男(1968) 松虫の飼育. 昆虫と自然, 3(9): 22-24.
- 牧林 功(1997) 「日本の音風景 100選」選外の虫の声の聞きどころ. 寄せ蛾記, (84): 2348-2351.
- 埼玉県環境部自然保護課(1996) さいたまレッドデータブック — 埼玉県希少野生生物調査報告書 動物編一, 335pp.
- 田村 説三(1994) まぐさ場(秣場)の植生とまぐさ場起源の二次林. 埼玉県立自然史博物館研究報告, (12): 73-82.
- 田中 義一(1981) 沼普請をめぐる一聞き取りと手記から. 滑川村史調査報告書 民族資料第3集 滑川村の沼とその民族, pp. 29-36.
- 富永 達(1997) チガヤの生活史特性の文化 In: 雑草の自然史 たくましさの生態学(山口裕文(編著)), pp. 141-149. 北海道大学図書刊行会.
- 内田正吉・和田 一郎(1998) 埼玉県の直翅目(バッタ目). 埼玉県昆虫誌 I, pp. 69-124.
- 矢作 尚也・栃原 嗣雄(1981) 比企丘陵域の溜池灌漑—嵐山町越畑地区の事例を中心に—. 埼玉県立歴史資料館研究紀要, (3): 137-156.
- 吉川 照章(1988) 荒川水系の溜池. 荒川 人文II. 荒川総合調査報告書3, pp.553-562.
- 鷲谷 いづみ・矢原 徹一(1996) 保全生態学入門 遺伝子から景観まで. 270pp. 文一総合出版.

埼玉県におけるササキリモドキ類の追加記録

和田 一郎

1999年に県内で確認できたササキリモドキ類について報告する。特に断りの無い限り、採集または確認は筆者による。また、貴重な標本を恵与下さいました高野徹氏に厚く御礼申し上げる。

1. 所沢市上山口虫たちの森 (メッシュコード5339-5333)

Xiphidiopsis subpunctata (Motschoulsky, 1866) セスジササキリモドキ

1♂, 9.VIII.1999

Leptoteratura albicornis (Motschoulsky, 1866) ヒメツコムシ

1♀, 9.VIII.1999

セスジササキリモドキは所沢市では2頭目の記録となる。県内における東限は所沢市三ヶ島であったので、わずかながら東方へ更新したことになる。

2. 飯能市美杉台 (メッシュコード5339-6204)

Xiphidiopsis subpunctata (Motschoulsky, 1866) セスジササキリモドキ

目撃 (1 ex.), 2丁目三徳ストアー自動販売機 23.VIII.1999

目撃 (1 ex.), 2丁目三徳ストアー自動販売機 25.VIII.1999

メッシュコード5339-6214

目撃 (2 ex.), 5丁目コンフォール2 1階 26.VIII.1999

3. 北本市石戸宿自然公園内 (メッシュコード5439-0410)

Kuzicus suzukii (Matsumura et Shiraki, 1908) ササキリモドキ

1♀, 北側台地上の草原 25.IX.1999 高野徹採集

高野氏によれば、クワの木に造られたジョロウグモの巣にひっかかっており、採集したときはまだ生きていたとのことある。、県内における東限は所沢市荒幡であったが、今回の記録により本種が大宮台地にも生息していることが明らかになった。ヒメクサキリと同様の分布パターンを示すのかもしれないが、丘陵性の種としては大変貴重な記録である。

(わだ いちろう 〒357-0041 飯能市美杉台 5-2-12-213)

灯火に集まるショウリョウバッタモドキ

和田 一郎

1999年8月22日の夜8時頃、自宅近くの美杉台公園 (メッシュコード5339-6214) にヤブキリを採しに行ったところ、非常に変わったものを見たので報告する。それはショウリョウバッタモドキの大軍であった。美杉台公園にはサッカー場があり、まだ照明がついていたが、この回りを多数のショウリョウバッタモドキが飛び回っていたのである。その高さは数十メートルにも達するものもいたが、飛び方は通常と変わらずゆっくりとしたもので、まるでゴム動力の飛行機のようなであった。筆者はショウリョウバッタモドキが灯火に集まるという報告は聞いたことが無いし、数十メートル上空を飛ぶという話も聞いたことが無い。

(わだ いちろう 〒357-0041 飯能市美杉台 5-2-12-213)

両神村の蝶の採集記録

阿部 功

筆者は、両神村において1994年埼玉昆虫談話会の宿泊談話会及び1999年両神山の登山他1回の蝶類採集を行った。

その結果、埼玉県昆虫誌において両神村に記録の無かった蝶8種の採集をしているので報告します。

I. 両神村に記録の無かった蝶の記録

1. メスアカミドリシジミ
1999. 7. 31 両神村白井差 1♀ (標本筆者保管)
2. オナガシジミ
2000. 2. 12 両神村中尾 4卵採集
3. ウラギンシジミ
1994. 7. 30 両神村桜本 1♀ (標本筆者保管)
4. オオミスジチョウ
1994. 7. 31 両神村白井差 1♀ (標本筆者保管)
5. ミスジチョウ
1999. 7. 31 両神村白井差 1♀ (標本筆者保管)
6. ホシミスジ
1994. 7. 31 両神村白井差 1頭
1999. 7. 31 両神村白井差 1♀ (標本筆者保管)
7. スミナガシ
1994. 7. 31 両神村白井差 2♂ (標本筆者保管)
1999. 7. 31 両神村白井差 4♂ (標本筆者保管)
8. アオバセセリ
1999. 7. 31 両神村白井差 1♂ (標本筆者保管)

II. その他の記録

1. カラスアゲハ
1994. 7. 31 両神村中尾 1♂ (標本筆者保管)
2. ミヤマカラスアゲハ
1994. 7. 31 両神村中尾 5♂ (標本筆者保管)
3. スジボソヤマキチョウ
1994. 7. 31 両神村白井差 1♂ (標本筆者保管)
4. ウラキンシジミ
1999. 7. 31 両神村白井差 2♀ (標本筆者保管)
5. ミドリシジミ
1999. 7. 31 両神村白井差 1♀ (標本筆者保管)
6. サカハチチョウ
1994. 7. 31 両神村白井差 2♂ (標本筆者保管)

埼玉県における甲虫類(カミキリを除く)の記録

石蔵 拓

筆者は本誌の寄せ蛾記79号「奥秩父地方の甲虫類の記録」で、1994年から95年にかけて奥秩父地方で採集したカミキリムシ以外の甲虫について報告していますが、その続編として1996年から1999年までの主に奥秩父地方(大滝村)で採集したカミキリムシ以外の甲虫について報告する。

同定にあたっては荒井充朗氏、江本健一氏、遠山雅夫氏、田尾美野留氏、露木繁雄氏に、お時間を割いていただき、この場を借りてお礼申し上げる。

埼玉県昆虫誌にての未記録は以下の11種と思われる。

ホソヒメクロオサムシ	エサキキンヘリタムシ	ヤマムツボシタムシ
ニホンフトヒラタコメツキ	オオクシヒゲベニポタル	キイロシリフトジョウカイ
ヒイロホソナガクチキ	ツマグロキゲンセイ	ケブカクロナガハムシ
リンゴヒガナガゾウムシ	ノヒラツツゾウムシ	

その他コガネ(Serica), コメツキ, ジョウカイ, ゴミダマ類の一部は専門家へ同定依頼中。

ハンミョウ科 Cicindelidae

トウキョウヒメハンミョウ *Cicindela kaleea yedoensis* KANO

1 ex., 1997. 7. 5, 日高市宿東

牛井屋の店の中で採集。

エリザハンミョウ *Cicindela elisae* MOTSCHULSKY

1 ex., 1997. 7. 14, 荒川村賛川

ニワハンミョウ *Cicindela japana* MOTSCHULSKY

1 ex., 1996. 5. 3, 小鹿野町伊豆沢

ミヤマハンミュウ *Cicindela sachalinensis* MORAWITZ

1 ex., 1996. 5. 18, 大滝村中津川林道

1 ex., 1997. 7. 25, 大滝村中津川林道

1 ex., 1998. 7. 20, 大滝村中津川林道

中津川林道の1400-1500m付近には局地的に30頭以上発生している場所が数箇所ある。昔からハンミョウ谷と言われる場所は中津川林道にもあった。

オサムシ科 Carabidae

クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczii* (MORAWITZ)

1 ex., 1998. 7. 15, 寄居パーキングエリア(関越道)

街灯に飛来する。早い飛翔力をもつ。オサムシがフライングすると聞いていたが実際に見ることができた。

ホソヒメクロオサムシ *Leptocarabus harmandi* (LAPOUGE)

1 ex., 1999. 9. 19, 大滝村豆焼沢(埼玉県昆虫誌未記録)

フジコブヤハズカミキリが採れた時の副産物

クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus procerulus* (CHAUDOIR)

1 ex., 1999. 9. 19, 大滝村豆焼沢

ゴミムシ科 Harpalidae

ホソモリヒラタゴミムシ *Colpodes speculator* HAROLD

3 ex., 1997. 9. 14, 大滝村豆焼橋 ライトトラップ

ヤセモリヒラタゴミムシ *Colpodes elainus* BATES

- 1 ex., 1996. 6. 23, 大滝村中津川林道
 ヤホシゴミムシ *Lebidia octoguttata* MORAWITZ
 1 ex., 1998. 5. 1, 小鹿野町伊豆沢
 フタツメゴミムシ *Lebidia bioculata* MORAWITZ
 1 ex., 1997. 8. 22, 大滝村豆焼橋
 アオヘリアトクリゴミムシ *Parena latecincta* (BATES)
 1 ex., 1997. 8. 15, 入間市西久保
 フタホシアトクリゴミムシ *Lebia bifenestrata* MORAWITZ
 1 ex., 1998. 05. 09, 都幾川村大野舟沢

シデムシ科 Silphidae

- ヒメクロシデムシ *Nicrophorus tenuipes* LEWIS
 1 ex., 1996. 8. 17, 大滝村中津川林道 ライトトラップ
 関東での記録は埼玉県, 群馬県, 栃木県の3県と思われる。
 オオモモブトシデムシ *Necrodes asiaticus* PORTEVIN
 1 ex., 1998. 6. 28, 寄居パーキングエリア (関越道)
 ベッコウヒラタシデムシ *Eusilpha brunneicollis* (KRAATZ)
 1 ex., 1998. 5. 23, 大滝村大山沢
 ヨツボシヒラタシデムシ *Dendroxena sexcarinata* (MOTSCHULSKY)
 1 ex., 1998. 5. 23, 大滝村大山沢 2例目

シデムシモドキ亜科 Apateticinae

- シラオビシデムシモドキ *Nodynus leucofasciatus* LEWIS
 1 ex., 1996. 5. 3, 両神村大胡桃

コガネムシ科 Scarabaeidae

- ヒゲブトハナムグリ *Amophicoma pectinata* LEWIS
 1♀, 1997. 5. 25, 浦和市大門
 5♂6♀, 1998. 5. 10, 所沢市堀ノ内
 メスが産卵(?)で土の中に潜ろうとしている時に飛翔中のオスが多数群がってくる。
 5月10日は百頭以上目撃。
 オオクロコガネ 学名省略
 1 ex., 1998. 6. 28, 寄居パーキングエリア (関越道)
 コフキコガネ 学名省略
 1 ex., 1998. 6. 28, 寄居パーキングエリア (関越道)
 ヒメスジコガネ 学名省略
 1 ex., 1998. 6. 28, 寄居パーキングエリア (関越道)
 キンスジコガネ *Mimela holosericea* (FABRICIUS)
 1 ex., 1996. 7. 13, 大滝村中津川林道 ライトトラップ
 アオカナブン 学名省略
 1 ex., 1999. 7. 25, 大滝村山吹沢
 アオアシナガハナムグリ *Gnorimus subopacus viridiopacus* MOTSCHULSKY
 1 ex., 1996. 7. 28, 大滝村中津川林道
 1 ex., 1997. 7. 19, 大滝村中津川林道
 オオトラフコガネ *Paratrichius doenitzi* (HAROLD)
 1♂1♀, 1996. 7. 28, 大滝村中津川林道

タマムシ科 Family Buprestidae Eschscholtz.1829

タマムシ類は本州で122種, 関東では栃木県 (1996) 70種が一位で茨城県 (1996) 62種,

埼玉県 (1999) 61種と続いた。ここに埼玉県で以下の2種を追加し63種とする。
タマムシ類はなかなか敏捷敏感で採集しづらく、取り損なった珍品がいくつかある。

タマムシ亜科 Subfamily Buprestinae Lacordaire, 1857

キンヘリタマムシ属 Genus *Poecillonota* Eschscholtz, 1829

エサキキンヘリタマムシ *Poecillonota kamikochiana* (Obenberger, 1940), comb. nov.
1 ex., 1997. 7. 14, 大滝村中津川 (埼玉県昆虫誌未記録)

ムツボシタマムシ亜科 Subfamily Chrysobothrinae Laporte et Gory, 1837

ムツボシタマムシ属 Genus *Chrysobothris* Eschscholtz, 1829

ヤマムツボシタマムシ *Chrysobothris igai* Y.KUROSAWA, 1948
1 ex., 1996. 8. 3, 大滝村中津川 (埼玉県昆虫誌未記録)

ナガタマムシ亜科 Subfamily Agrilinae Gory et Laporte, 1837

ナガタマムシ属 Genus *Agrilus* Curtis, 1825

ミドリツヤナガタマムシ *Agrilus sibiricus* Obenberger, 1912
日本亜種 Subsp. *fukushimensis* Jendek, 1994
1 ex., 1996, 6, 8 大滝村中津川 県2例目

ナガハナノミ科 Ptilodactylidae

エダヒゲナガハナノミ *Epilichas flabellatus flabellatus* (KIESENWETTER)
1 ex., 1997. 6. 28, 大滝村雲取林道 県2例目

コメツキムシ科 Elateridae

オオクシヒゲコメツキ *Tetrigus lewisi* CANDEZE
1 ex., 1998. 8. 1, 大滝村中津川

ニホンベニコメツキ *Denticollis nipponensis nipponensis* OHIRA
1 ex., 1998. 5. 1, 小鹿野伊豆沢

メスグロベニコメツキ *Denticollis versicolor* (LEWIS)
1 ex., 1997. 7. 20, 大滝村十文字峠 県2例目

オオツヤハダコメツキ *Stenagostus umbratillis* (LEWIS)
1 ex., 1997. 8. 22, 大滝村豆焼橋 ライトトラップ

ダイミョウコメツキ *Anostirus daimio* LEWIS
4 ex., 1997. 4. 29, 大滝村大血川

ニホンフトヒラタコメツキ *Acteniceromorphus nipponensis* OHIRA
1 ex., 1997. 6. 1, 大滝村中津川 (埼玉県昆虫誌未記録)

メスアカマダラコメツキ *Gamepentes versipellis* (LEWIS)
3 ex., 1997. 7. 25, 大滝村中津川林道

ムネアカクロコメツキ *Ischnodes sanguinicornis maiko* W.SUZUKI, 1985
1 ex., 1997. 7. 6, 大滝村大血川

ヨツキボシコメツキ *Ectinoides insignitus insignitus* (LEWIS)
1 ex., 1998. 5. 1, 小鹿野伊豆沢

ベニボタル科 Lycidae

オオクシヒゲベニボタル *Macrolycus excellens* NAKANE
1 ex., 1998. 7. 26, 大滝村中津川 (埼玉県昆虫誌未記録)

ジョウカイボン科 Cantharidae

- キイロシリプトジョウカイ *Yukikoa wittmeri* (NAKANE)
 1 ex., 1997. 6. 1, 大滝村中津川 (埼玉県昆虫誌未記録)
 他のジョウカイは同定依頼中

ヒラタムシ科 Cucujidae

- ヒメヒラタムシ *Uleiota arbora* (REITTER)
 2 ex., 1994. 5. 14, 両神村大胡桃
- ヒゲナガヒメヒラタムシ *Dendrophagus longicornis* REITTER
 1 ex., 1997. 6. 1, 大滝村中津川 県2例目
- ルリヒラタムシ *Cucujus mniszewi* GROUVELLE
 1 ex., 1997. 6. 1, 大滝村中津川

オオキノコムシ科 Erotylidae

- オオキノコムシ *Encaustes praenobilis* LEWIS
 1 ex., 1998. 7. 25, 大滝村中津川
 1 ex., 1998. 8. 22, 大滝村中津川
- ミヤマオビオオキノコ *Episcapha gorhami* LEWIS
 1 ex., 1998. 5. 23, 大滝村大山沢 ライトトラップ

ナガクチキムシ科 Melandryidae

- フタオビホソナガクチキ *Dircaea erotyloides* LEWIS
 1 ex., 1998. 8. 23, 秩父市仙元谷林道 県2例目
- オオクロホソナガクチキ *Phloeotrya bellicosa* LEWIS
 1 ex., 1997. 7. 8 大滝村雲取林道
- キオビホソナガクチキ *Phloeotrya flavitarsis* LEWIS
 1 ex., 1996. 4. 28, 大滝村中津川
 1 ex., 1996. 5. 11, 大滝村中津川
- クロホソナガクチキ *Phloeotrya rugicollis* MARSEUL
 1 ex., 1997. 6. 7, 所沢市勝楽寺
- コメツキガタナガクチキ *Enchodes crepusculus* (LEWIS)
 1 ex., 1998. 7. 11, 大滝村大血川 県2例目
- アオバナガクチキ *Melandrya gloriosa* LEWIS
 1 ex., 1998. 5. 23, 大滝村中津川
- ヒイロホソナガクチキ *Dapsiloderus nomurai* (NAKANE et HAYASHI, 1955)
 1♂♀, 1997. 7. 25, 大滝村中津川林道 (埼玉県昆虫誌未記録)

ハムシダマシ科 Lagriidae

- ナガハムシダマシ *Macrolagria rufobrunnea* (MARSEUL)
 1 ex., 1997. 5. 4, 伊那町小室

ツチハンミョウ科 Meloidae

- ツマグロキゲンセイ *Zonitis cothurnata* MARSEUL
 1 ex., 1998. 8. 1, 大滝村中津川 (埼玉県昆虫誌未記録)

ハムシ科 Chrysomelidae

- ツツハムシ亜科 Cryptocephalinae
 ヨツモンクロツツハムシ *Cryptocephalus nobilis* KRAATZ

1 ex., 1998. 5. 1, 小鹿野伊豆沢

ヒゲナガハムシ亜科 Galerucinae

クルミハムシ *Gastrolina depressa* BALY

1 ex., 1999. 5. 23, 大滝村入川林道

クロウリハムシ *Aulacophora nigripennis* MOTSCHULSKY

1 ex., 1997. 5. 4, 伊那町小室

クワハムシ *Fleutiauxia armata* (BALY)

1 ex., 1994. 5. 21, 両神村大胡桃

ケブカクロナガハムシ *Hesperomorpha hirsuta* (JACOBY)

1♂♀ 1998. 5. 31. 大滝村奥秩父林道 (埼玉県昆虫誌未記録)

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidar

コモンマダラヒゲナガゾウムシ *Litocerus multiguttatus* (NAKANE)

1 ex., 1998. 3月羽脱 (ケヤキ), 大滝村大血川

クロフヒゲナガゾウムシ *Tropideres roelofsi* (LEWIS)

1 ex., 1997. 5. 5, 大滝村中津川

リンゴヒガナガゾウムシ *Phyllobius longicornis* ROELOFS

1 ex., 1997. 6. 28, 大滝村雲取林道 (埼玉県昆虫誌未記録)

チョッキリゾウムシ科 Rhynchitidae

チャイロチョッキリ *Aderorhinus crioceroides* (ROELOFS)

1 ex., 1997. 6. 15, 滑川町

オトシブミ科 Attelabidae

オトシブミ *Apoderus jekelii* ROELOFS

1 ex., 1998. 6. 28, 大滝村奥秩父林道

アカクビナガオトシブミ *Paracentrocorynus nigricollis* (ROELOFS)

1 ex., 1997. 6. 28, 大滝村雲取林道

ゾウムシ科 Curculionidae

リンゴコフキゾウムシ *Phyllobius armatus* ROELOFS

1 ex., 1998. 5. 30 大滝村大山沢

ツチイロヒゲボソゾウムシ *Phyllobius incomptus* SHARP

1 ex., 1997. 5. 4, 伊那町小室

クチブトヒゲボソゾウムシ *Phyllobius polydrusoides* SHARP

1 ex., 1997. 6. 28, 大滝村雲取林道

シロコブゾウムシ *Episomus turritus* (GYLLENHAL)

1♂♀, 1998. 5. 9, 都幾川村大野舟沢

フキヒョウタンゾウムシ *Catapionus modestus* ROELOFS

1 ex., 1997. 6. 1, 大滝村中津川

1 ex., 1998. 7. 20, 大滝村入川林道

スグリゾウムシ *Pseudocneorhinus bifasciatus* ROELOFS

1 ex., 1997. 6. 15, 滑川町

ハスジカツオゾウムシ *Lixus acutipennis* (ROELOFS)

1 ex., 1998. 7. 4, 秩父市仙元谷林道

クリシギゾウムシ *Curculio sikkimensis* (HELLER)

- 1 ex., 1997. 9. 6, 大滝村豆焼橋
 ツツゾウムシ *Carcilia strigicollis* ROELOFS
 1 ex., 1998. 7. 11, 大滝村大血川
 コゲチャツツゾウムシ *Carcilia tenuistriata* HELLER
 1 ex., 1996. 6. 16, 大滝村中津川
 ノヒラツツゾウムシ *Magdalis nohirai* MORIMOTO
 1 ex., 1997. 8. 3, 大滝村南天山 (埼玉県昆虫誌未記録)
 マツキボシゾウムシ *Pissodes nitidus* ROELOFS
 1 ex., 1998. 5. 2, 湍川町
 タマゴゾウムシ *Dyscerus roelofsi* (HAROLD)
 1 ex., 1998. 8. 2, 大滝村雁峠
 マエバラクチカクシゾウムシ *Rhadinomerus maebarai* CHUJO et VOSS
 1 ex., 1998. 5. 30, 大滝村大山沢
 アシナガオニゾウムシ *Gasterocercus longipes* KONO
 1 ex., 1997. 7. 5, 大滝村大血川

参考文献

日本産タマムシ科チェックリスト (秋山黄洋, 大桃定洋)
 神奈川虫報・神奈川県タマムシ科 (平野幸彦)
 神奈川虫報・特別号 No. 2 平野幸彦氏虫寿記念号
 原色日本甲虫図鑑 (III) 黒沢, 久松, 佐々治

(いしくら ひらき 〒170-0012 東京都豊島区上池袋 3-34-11-707)

雲取山にてクロキノカワゴミムシを採集

阿 部 功

雲取山に登頂した際、宿泊した雲取山荘の灯火にきたクロキノカワゴミムシを採集したので報告します。

クロキノカワゴミムシは、本州に分布し岩や樹幹についたコケの下などに棲むとなっています。今回の記録は、埼玉県初記録となります。

謝辞、同定にご協力頂いた牧林会長、西山明氏に厚く御礼申し上げます。

クロキノカワゴミムシ *Leistus obtusicollis* BATES, 1883

(データ) 1999年10月9日 埼玉県大滝村雲取山荘
 筆者採集・保管

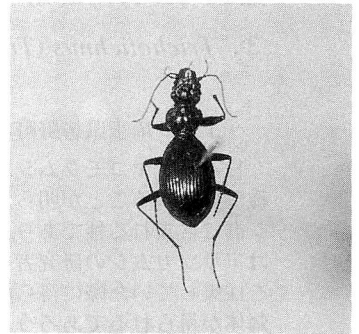


図. 採集した個体

参考文献：原色日本甲虫図鑑 (II) 保育社

(あべ つとむ 〒343-0807 越谷市赤山町 3-235-3)

埼玉県から新たに記録される甲虫類 (1)

豊田 浩二

埼玉県内でこれまでに採集された甲虫類のうち、筆者の手元にあるもので埼玉県昆虫誌に掲載されていない種類、つまり埼玉県初記録と思われる種について、標本整理と同定が完了している29種を報告する。種名(学名・和名)、採集個体数、場所、年月、採集者の順で示した。また、全ての種について何らかの情報を付け加えるよう心がけた。

COLEOPTERA コウチュウ目

Dytiscidae ゲンゴロウ科

1. *Potamonectes hostilis* (SHARP, 1884) コシマチビゲンゴロウ

2♂♂ 4♀♀, 埼玉県長瀬町長瀬(荒川岩畳), 27.VI.1997, 筆者採集, 保管.

清流に生息する種で、岩畳の湧水が流れ込む場所の水溜りに多くの個体が見られた。観光地として古くより人々の賑わいがある長瀬であるが、このような種が生息していると言うことはまだまだ良い水辺環境が存在する証拠であろう。なお、上記の標本は環境庁の種の多様性調査で産地のみ既に報告しているが、記録として引用しやすいよう詳細なデータと共に再度記録したものであることを付しておく。

Carabidae オサムシ科

2. *Elaphropus nipponicus* (HABU et BABA, 1967) セダカコミズギワゴミムシ

1♀, 埼玉県玉川村春日神社(リター), 29.VIII.1999, 筆者採集, 保管.

照葉樹林の落葉下に生息する種で、県内では丘陵地から低山地にかけての良好な森林環境が保存されている場所に生息するようである。本種は後翅が退化しており、小型種であることから移動能力も極めて低いと言える。地域個体群がそれぞれ孤立状態となっている可能性が高く、伐採等による森林環境の乾燥化が直ちに個体群の絶滅につながるであろう。

3. *Trichotichnus (Trichotichnus) daibosatsunis* KASAHARA, 1991

ダイボサツツヤゴモクムシ

1♂, 埼玉県皆野町城峰山, 12.IX.1999, 新井志保採集, 筆者保管.

日本産ツヤゴモクムシ群についてはMORITA (1997) で整理がなされ、6コンプレックス39種が分布することが明らかになった。この度県内から得られた個体はダイボサツツヤゴモクムシ群に含まれる種であり、雄交尾器中片等の形質から上記の種であることが判明した。本個体はアリツカムシの研究者である東京農大の新井志保氏により、ガレ場に生息するアリツカムシを採集していた際に得られたものであるが、同様の環境下を調査することで今後さらなる追加個体が得られるであろう。なお、MORITA (1997) では東京都の雲取山からも記録されており、雲取山の埼玉県側にも分布する可能性が極めて大きい。

Silphidae シデムシ科

4. *Apteroloma discicolle* (LEWIS, 1893) ムナグロホソツヤシデムシ

1♂ 1♀, 埼玉県東秩父村白石峠, 8.XI.1998, 新井志保採集, 筆者及び新井保管; 10♂♂ 7♀♀, 同県吉田町城峰山, 29.V.1999, 筆者採集, 保管.

山地の林道脇などにある日当たりの良いガレ場で、浅く潜り込んだ状態で見つかる。生息地

での個体数はひじょうに多く、筆者は奥多摩の西谷山付近でも同様の状況を観察している。

Staphylinidae ハネカクシ科

5. *Nazeris optatus* (SHARP, 1889) ヒメアバタコバネハネカクシ

1♂, 埼玉県東秩父村白石峠, 5.V.1999, 筆者採集, 保管.

N. wollastoni アバタコバネハネカクシが平野部の照葉樹林落葉下を主な生息域とするのに対し、本種は山地の細かい石が積もったガレ場中より得られた。同様の環境下からはアリツカムシ類や前述のムナグロホソツヤシデムシ、タマキノコムシ類等が多く得られており、微小甲虫が生息するには良い環境であるようだ。

6. *Philonthus liopterus* SHARP, 1889 コゲチャコガシラハネカクシ

4頭(♂個体含), 埼玉県東秩父村秩父高原牧場(二本木峠付近), 6.VIII.1998; 4頭, 同所, 13.VIII.1998; 2頭, 同所, 16.VIII.1998; 1頭, 同所, 3.VII.1999, いずれも筆者採集, 保管.

樹液に飛来する種で、樹皮の隙間やウロの周囲をすばやく動き回る。昼行性のようで、夜間は居残りの個体が見られる程度である。

7. *Stenus macies* SHARP, 1874 ドウボソメダカハネカクシ

2♂♂ 1♀, 埼玉県東秩父村皇鈴山頂(標高679m)付近, 5.VIII.1998, 筆者採集, 保管.

林が切り開かれた空き地で、U字溝の周囲に多数見られた。

8. *Carphacis striatus* (OLIVIER, 1794) ハネスジキノコハネカクシ

1頭, 埼玉県大滝村地蔵峠, 20.IX.1997, 筆者採集, 保管.

林床に生えるキノコ類よりオオキバハネカクシ類と共に得られた。

9. *Lordithon irregularis* (WEISE, 1877) ハスオビキノコハネカクシ

1頭, 埼玉県大滝村地蔵峠, 20.IX.1997, 筆者採集, 保管.

前種同様、キノコ類より得られた。

Eucnemidae コメツキダマシ科

10. *Otho spondyloides* (GERMAR, 1818) ノコヒゲフトコメツキダマシ

1頭, 埼玉県大滝村大山淵, 31.VII.1999, 筆者採集, 保管.

沢沿いの原生林にて、ブナの倒木の表面を徘徊する個体得られた。

Elateridae コメツキムシ科

11. *Kibunea ignicollis* (LEWIS, 1894) キンムネヒメカネコメツキ

1頭, 埼玉県大滝村中津川溪谷相原沢(標高700m付近), 30.V.1999, 筆者採集, 保管.

沢沿いのスウィーピングで得られた。

Nitidulidae ケシキスイムシ科

12. *Soronia fracta* REITTER, 1884 オオキマダラケシキスイ

1頭, 埼玉県横瀬町大野峠(バナナと焼酎によるペットボトル・トラップ), 6.VIII.1998,

筆者採集, 保管; 4頭, 同県東秩父村秩父高原牧場(二本木峠付近), 13.VIII.1998; 1頭, 同所, 3.VII.1999; 1頭, 同所, 27.IX.1999, いずれも筆者採集, 保管.

体長10mm近くに達する大型種で、樹液に飛来している姿が昼夜問わず良く見られた。また

大野峠では子供昆虫教室のために雑木林に仕掛けたトラップに本種が誘引された。外父部山地では普通種のようなのであるが、平野部で全く得られないところを見ると、どうやら山地性の種であるようだ。

13. *Librodor pantherinus* (REITTER, 1879) ヒョウモンケシクスイ

3頭, 埼玉県荒川村川浦溪谷, 5.IX.1999, 筆者採集, 保管.

とても美しい種である。3頭のうち2頭は紋の発達が弱く、一見して同種であるとは判別しにくい。しかしながら、体下面の色彩や各部の形態等により全て同一種であることが確認された。

Silvanidae ホソヒラタムシ科

14. *Ahasverus advena* (WALTL, 1832) カドコブホソヒラタムシ

19頭, 埼玉県坂戸市本町, 3.X.1998, 筆者保管; 1頭, 同県嵐山町菅谷, 15.X.1998, 筆者採集, 保管.

穀物害虫として知られる種であるが、これまで県内からの正式な記録は無かったようである。このたび坂戸市で得られた標本は、筆者の知人で建設業を営む某氏から同定依頼と共に寄せられたものである。建築後間もない住宅の畳上に大発生し、発生原因が不明であったことから畳との関連について調べてほしいとの依頼であったが、筆者の調べた限りでは畳に発生した例は確認できなかった。それより数日後、今度は築後間もない筆者宅の畳上からも1頭が得られ、畳との関連性が無視出来ない状況になった。倉庫の貯穀類から発生した可能性も否定はしないが、今後新築の畳に注意をする必要がある。なお、今回本種が得られた両住宅からは、その後本種が発生した形跡は無いようである。

Coccinellidae テントウムシ科

15. *Scymnus syoitii* SASAJI, 1971 キイロヒメテントウ

1頭, 埼玉県東松山市上押垂(都幾川河原), 29.XII.1999, 筆者採集, 保管.

河川中流域の河原にて、石下より得られる。体長1mm強と微小種であることから、採集には注意を要する。同様の環境下においては *S. kaguyahime* カグヤヒメテントウが多い。

16. *Halyzia sedecimguttata* (LINNAEUS, 1758) シロジュウロクホシテントウ

1頭, 埼玉県大滝村大血川溪谷大陽寺, 13.IX.1998, 筆者採集, 保管.

大陽寺手前の道脇茂みより、スウィーピングで得られた。

Corylophidae ミジンムシ科

17. *Alloparmulus rugosus* (MATTHEWS, 1899) チャイロミジンムシ

1頭, 埼玉県東秩父村安戸(槻川岸边), 1.I.1997, 筆者採集, 保管.

ケヤキ樹皮下より越冬個体が得られた。

Mycetophagidae コキノコムシ科

18. *Litargus unifasciatus* REITTER, 1889 フタモンヒメコキノコムシ

2頭, 埼玉県東秩父村安戸(槻川岸边), 1.I.1997, 筆者採集, 保管.

前種同様、槻川脇のケヤキ樹皮下より越冬個体が得られた。

Tetratomidae キノコムシダマシ科

19. *Abstrulia japonica* (MIYATAKE, 1955) マダラキノコムシダマシ

2頭, 埼玉県横瀬町芦ヶ久保, 11.II.2000, 筆者採集, 保管.

沢の脇に生えるケヤキの古木より、樹皮下で越冬中の個体が得られた。

Melandryidae ナガクチキムシ科

20. *Lederia japonica* REITTER, 1891 チビノミナガクチキ

1頭, 埼玉県秩父市橋立溪谷(リター), 17.VII.1999, 筆者採集, 保管.

落葉下に生息する微小種である。沢沿いのガレ場で表面の落ち葉を振るって得られた。

21. *Stolius vagepictus* LEWIS, 1895 ヨツボシキバネナガクチキ

1頭, 埼玉県大滝村中津川溪谷広河原沢, 6.IV.1997, 筆者採集, 保管.

林道で飛翔中の個体を採集した。早春の奥秩父では天気の良い日と悪くして状況が全く異なるようだが、この日は小春日和の暖かい日であった。

Rhipiphoridae オオハナノミ科

22. *Pelecotomoides tokejii* NOMURA et NAKANE, 1959 クチキオオハナノミ

1頭, 埼玉県横瀬町丸山, 2.VIII.1996, 松本慶一採集, 筆者保管.

子供昆虫教室を実施した際、林道の日当たりの良い場所で松本氏が採集したものである。

なお、筆者はこの場所で同時に現れた、大型で黄色い星のあるホシハナノミ類を取り逃がしている。誠に残念！。

Tenebrionidae ゴミムシダマシ科

23. *Ceropria laticollis* FAIRMAIRE, 1903 フトナガニジゴミムシダマシ

1頭, 埼玉県日高市女影, 15.VII.1999, 新井志保採集, 筆者保管.

この個体は夜間、新井氏の自宅裏の雑木林にてクヌギの樹皮を採取して持ちかえったところ、樹皮の内側に張りついていたので発見、採集したそうである。ナガニジゴミムシダマシとはやや幅広で上翅の溝が浅いことから別種であると判断し、筆者のもとに寄せられた。

Salpingidae チビキカワムシ科

24. *Lissodema pictipenne* LEWIS, 1895 フタオビチビキカワムシ

1頭, 埼玉県両神村両神山清滝, 10.V.1997, 筆者採集, 保管.

沢の源頭部で枯木の樹皮下より採集した。

Curculionidae ゾウムシ科

25. *Larinus griseopilosus* ROELOFS, 1873 シラクモゴボウゾウムシ

1♂1♀, 埼玉県大滝村大血川溪谷大陽寺, 4.VII.1999, 筆者採集, 保管.

大陽寺入り口の道脇にて、イタドリにしがみついていたペアを採集した。

26. *Notaris oryzae* (ISHIDA, 1902) クロイネゾウムシ

7頭, 埼玉県妻沼町俵瀬(利根川), 5.III.2000, 筆者採集, 保管.

利根川にある砂利採場の周囲にて、冬枯れたマコモの根際より得られた。筆者は千葉県手賀沼等でも同様の環境下で採集しているが、今後平野部で同様の環境下を調査することで新たな産地が見つかるであろう。

27. *Procas biguttatus* FAUST, 1882 オオクニネゾウムシ

3頭, 埼玉県大滝村ワサビ沢(雁坂トンネル付近), 23.XI.1999, 筆者採集, 保管.

初雪らしきものが日陰に積もる極寒の大滝をゴミムシ採集のために数回訪れたが、その際道脇のU字溝内に落ちたまま出られなくなっていた個体を採集した。本来の生息環境がどのよう

な場所なのか、今回の例を見る限りでは「良くわからない」と言うのが正直なところである。

28. *Protocalles monticola* VOSS, 1957 ミヤマクチカクシゾウムシ

7頭, 埼玉県秩父市天目山林道, 12.VI.1998, 筆者採集, 保管.

キイチゴより得られる珍しい種で、天目山林道では道沿いのキイチゴの枝先に多数の個体が見られた。

Scolytidae キクイムシ科

29. *Ficiphagus goliatoides* (MURAYAMA, 1955) ゴリアテキクイムシ

1頭, 埼玉県東秩父村安戸(槻川岸边), 25.I.1998, 筆者採集, 保管.

ケヤキの樹皮下で越冬個体が得られる。冬季採集では良く見かけるが、県内からは記録が無かったようである。嵐山町等でも採集しているので、今後記録を整理して報告したい。

以上、埼玉県産甲虫類29種について報告した。今後も記録の整理がつき次第報告してゆきたいと思う。

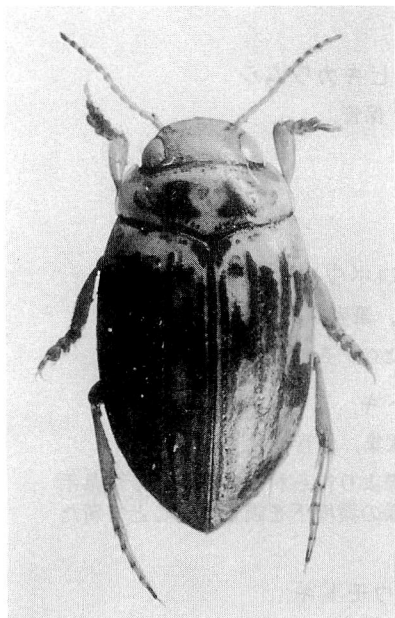
未筆ながら、本稿作成に際しいろいろと御世話になった東京農業大学昆虫分類研究室の新井志保、岸本年郎の各氏に厚く御礼申し上げる。

引用文献

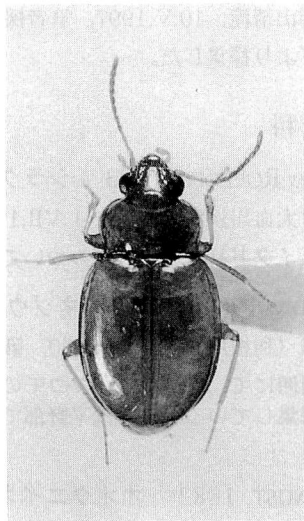
埼玉昆虫談話会, 1999. 埼玉県産昆虫リスト(鞘翅目), 埼玉県昆虫誌別巻, pp. 111-165.

なお、上記以後に印刷された埼玉県の甲虫類関係文献についてもおおよそのものについて参考にした。

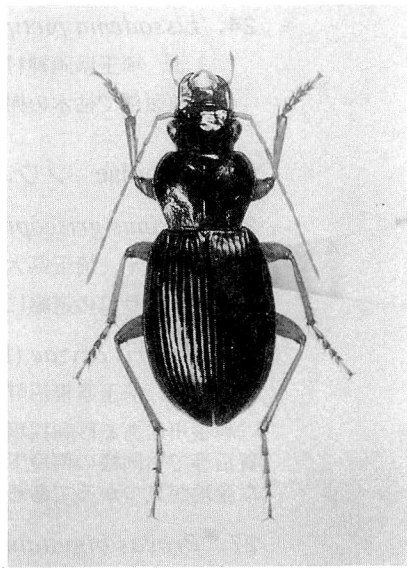
図版. 埼玉県初記録甲虫類(各番号は目録の掲載番号に相当する)



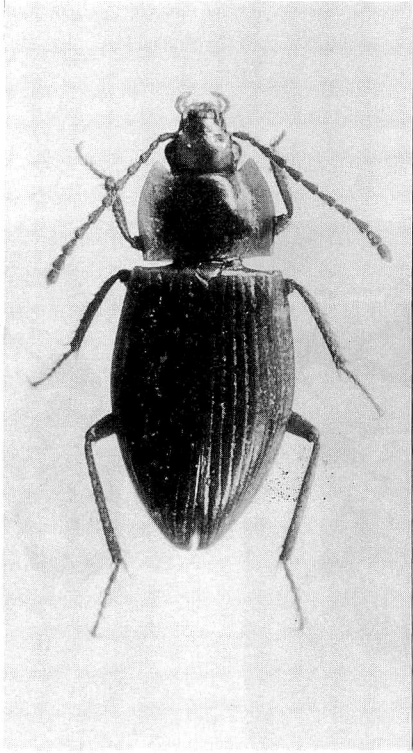
1



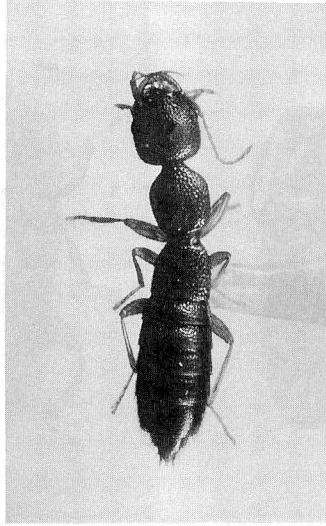
2



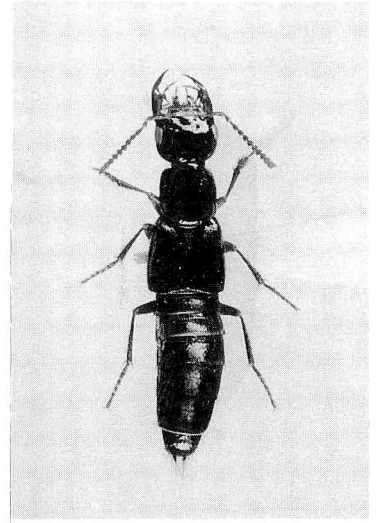
3



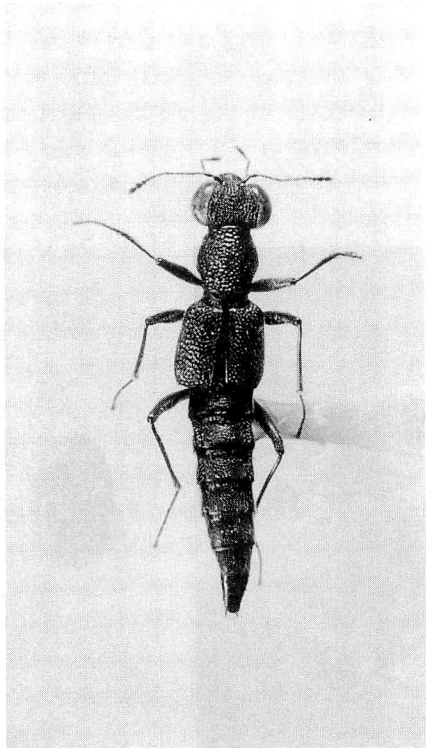
4



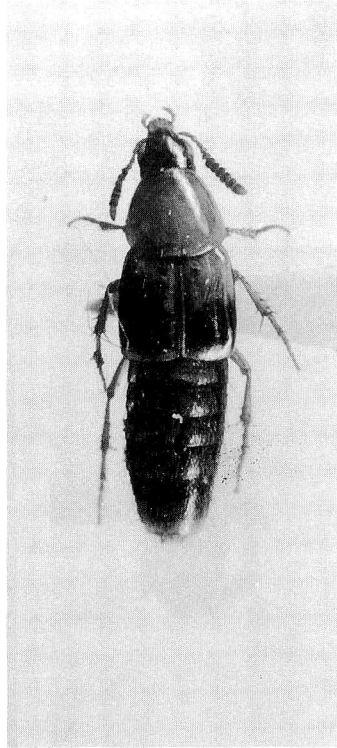
5



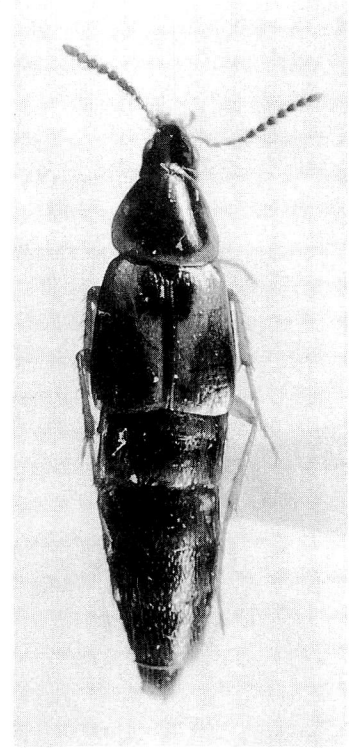
6



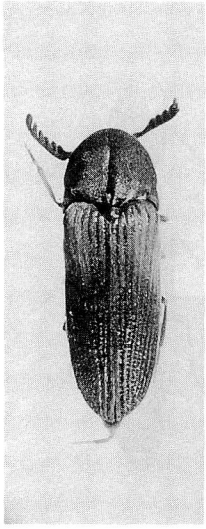
7



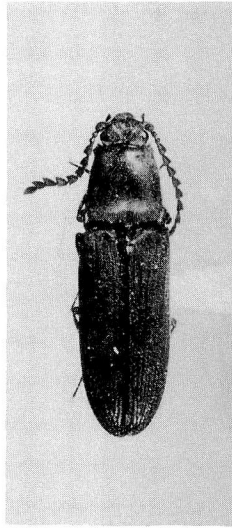
8



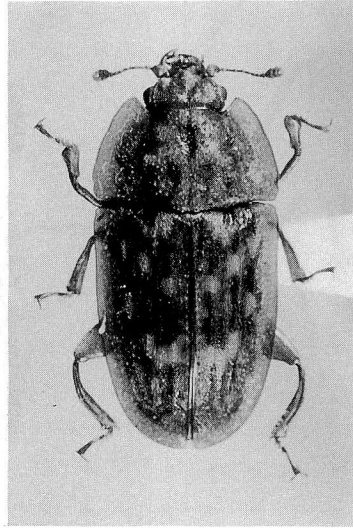
9



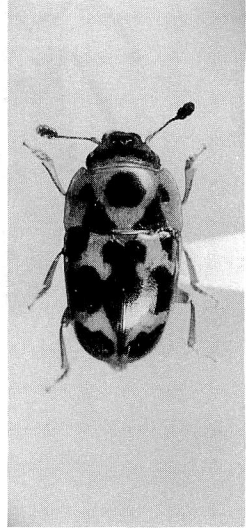
10



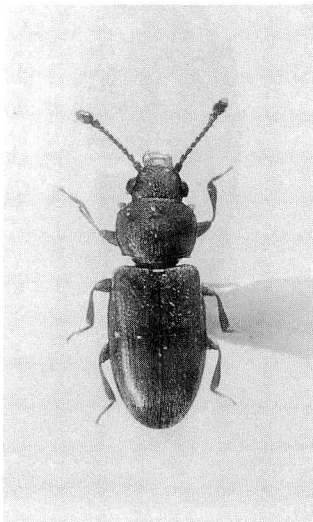
11



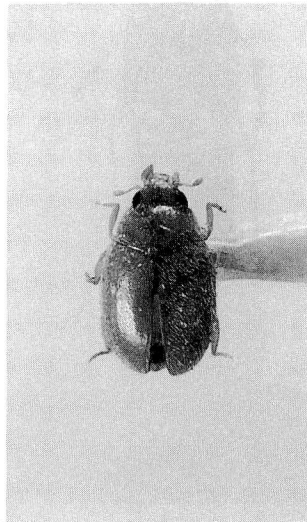
12



13



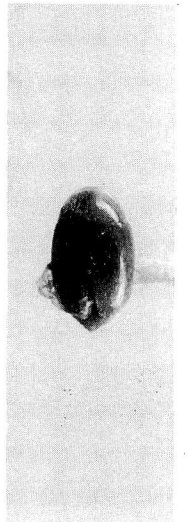
14



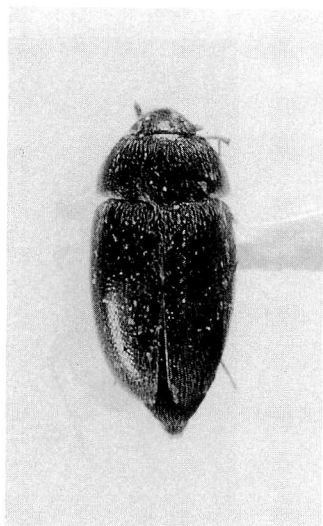
15



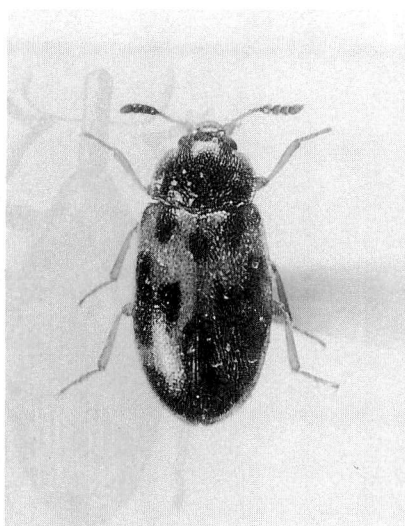
16



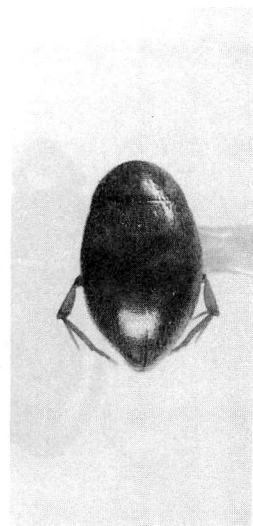
17



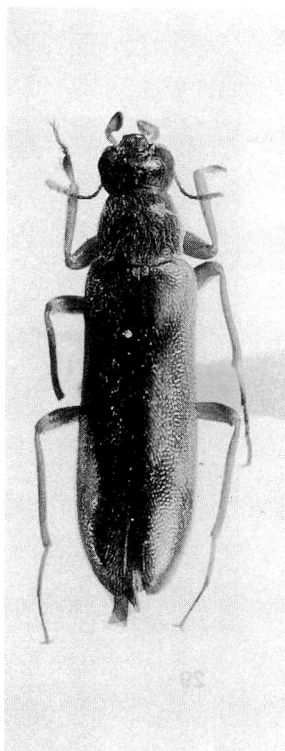
18



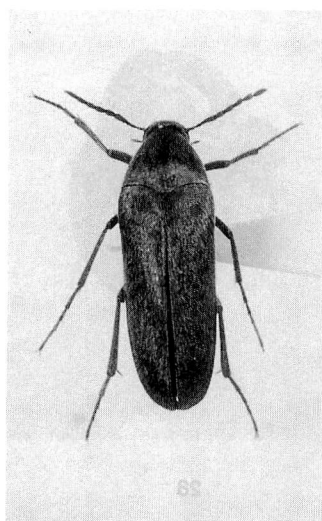
19



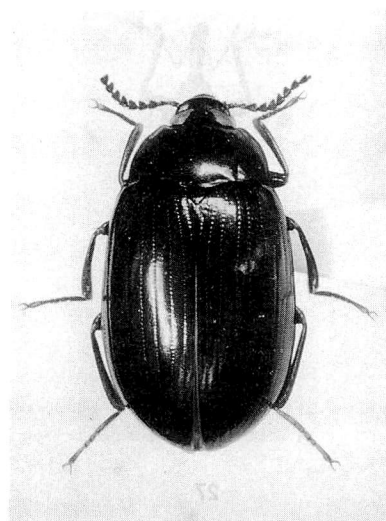
20



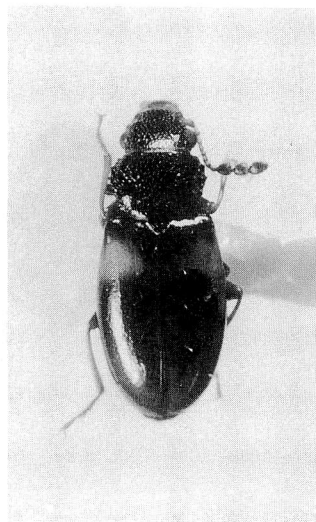
21



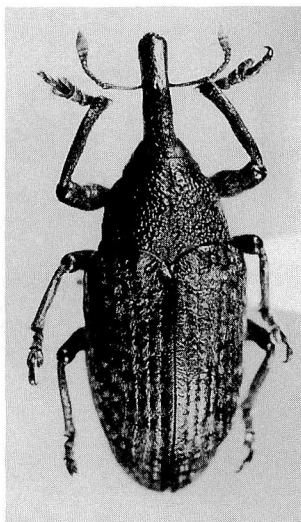
22



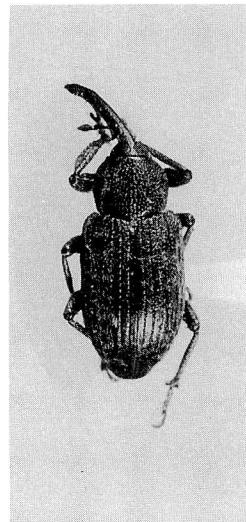
23



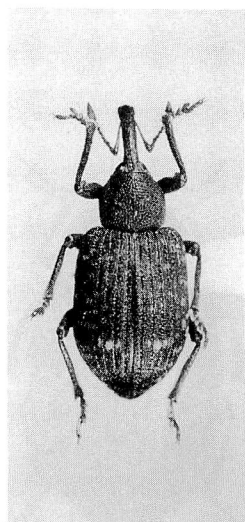
24



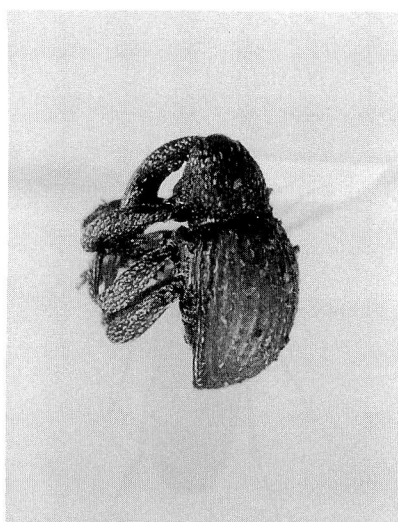
25



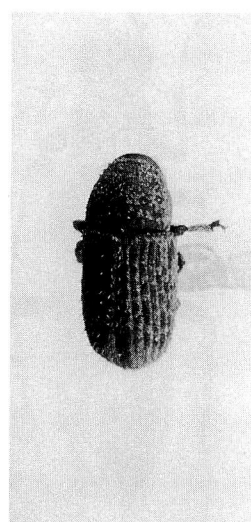
26



27



28



29

オオヨツボシゴミムシ追捕

豊田 浩二

筆者は寄せ蛾記92号で埼玉県のオオヨツボシゴミムシの記録について触れたが(豊田, 1999), その後の文献調査において, 県内の本種に関する記録で埼玉県昆虫誌に引用されていない報文を確認したので追捕の意味も含めて記録の整理をしたいと思う。

福井(1966)はオオヨツボシゴミムシの県内で3例目と思われる記録であり, 所沢市山口の西武園で1963年6月2日に1頭採集されている。雌雄については不明であり, 『草むしりの時採集』と付記されている。本種のほかにもエゾカタビロオサムシ, オオホソクビゴミムシ, ウバタマコメツキがそれぞれ記録されている。

上記の記録を含めて豊田(1999)の内容を考えてみると, まずタイトルの『埼玉県で43年ぶりに』というところは, 正しくは35年ぶりである。それから嵐山町の個体は『3例目』では無く4例目ということになる。どうでも良いことかもしれないが, 知っていてそのまま放置する事は良くないし, だいいち貴重な記録を残された福井氏に失礼である。筆者は今回の件で改めて, 地域甲虫相を調べて行く上での文献調査の重要性と引用漏れの恐ろしさを身にしみて感じた次第である。埼玉県昆虫誌には掲載されていないけれども, 昆虫誌以前に既に印刷されている県内の関連文献については, やはり気づいた人が随時“寄せ蛾記”にでも紹介するべきであろう。

未筆ながら, 貴重な文献を閲覧許可頂いた東京農業大学の渡辺泰明教授に厚く御礼申し上げます。

〔引用文献〕

福井 勇三郎, 1966. 埼玉県所沢市西武園の甲虫数種. 昆虫と自然, 1(6): 33.

豊田 浩二, 1999. 埼玉県で43年ぶりに記録されたオオヨツボシゴミムシ. 寄せ蛾記, (92): 2759-2760.

(とよだ こうじ 〒355-0221 比企郡嵐山町菅谷686)

ヤノクチナガオオアブラムシの記録

豊田 浩二

筆者は県内でこれまで記録のない *Stomaphis yanonis* TAKAHASHI, 1918 ヤノクチナガオオアブラムシについて, 以下のように採集しているので報告する。

3頭(無翅虫), 20.II.1999, 嵐山町鎌形八幡神社(ケヤキの幹にてトビイロケアリと共に越冬), 筆者採集, 保管。

白黒のコントラストが美しい本種は, クサアリ類やケアリ類と共生関係にあるようで, 必ずこれらのアリと共にケヤキやエノキの幹に見られる。県内では普通種のようなのである。

(とよだ こうじ 〒355-0221 比企郡嵐山町菅谷686)

埼玉県内のキカマキリモドキの記録

豊田 浩二

Eumantispia harmandi (NAVAS, 1909) キカマキリモドキは幼虫期に地上性クモ類の卵のうに寄生する事が知られ(平田, 1997), 稀種の多いカマキリモドキ科の中では比較的普通種であるが, 埼玉県内では大滝村と秩父市(横瀬町長者屋敷の頭は秩父市の誤りである), 大井町でそれぞれわずかな記録があるのみである。筆者は本種を日高市で採集しているので報告する。

1頭, 9.VIII.1997, 日高市日和田山山頂付近, 筆者採集, 新井志保保管(図)。

この個体は登山道脇のクモの巣に引っかかっていたものである。通り過ぎりのハイカーにその存在をお教え頂き採集した。大変ありがたいことである。

さて, キカマキリモドキの県内での記録を地図に落とししてみると, 山地に偏った分布を示していることがわかる。牧林・脇(1997)によれば『平地にも生息するが, 山地帯が主たる生息域で, 場所によっては個体数も多い。』とある。平野部に位置する大井町では住宅地のご真ん中で得られており, 牧林・脇(1997)の表現は埼玉県下においてもあてはまるようである。

今回の採集例は, 平地と山地の間にある記録の空白地帯を埋めるものであり, 本種の分布状況を知る上で重要な記録であろう。

末筆ながら, 本稿を作成するにあたってご協力頂いた東京農業大学昆虫分類研究室の新井志保氏に, また本種の存在を御教え頂いたハイカーのご婦人に厚く御礼申し上げます。

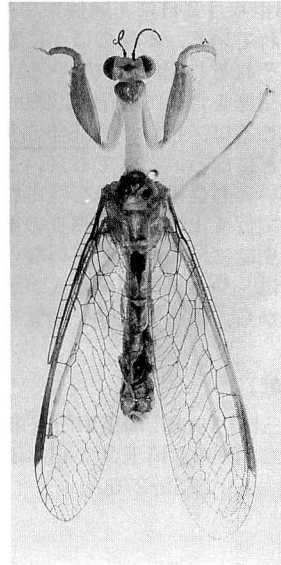


図. 日高市日和田山産キカマキリモドキと埼玉県内の分布状況

(引用文献)

- 平田 慎一郎, 1997. カマキリモドキ類. 日本動物大百科9, 平凡社, p.13.
 牧林 功, 1998. 埼玉県のアミメカゲロウ類. 埼玉県昆虫誌 I, 埼玉昆虫談話会. pp. 267-272.
 牧林 功・脇 一郎, 1997. 脈翅類. 丹沢大山自然環境総合調査報告書丹沢山地動植物目録, 神奈川県. pp. 257-260.
 山崎柄根, 1986. 大井町の昆虫相. 大井町史自然編, 大井町, pp. 91-137.

ホンドヒロオビモンシテムシを大滝村で採集

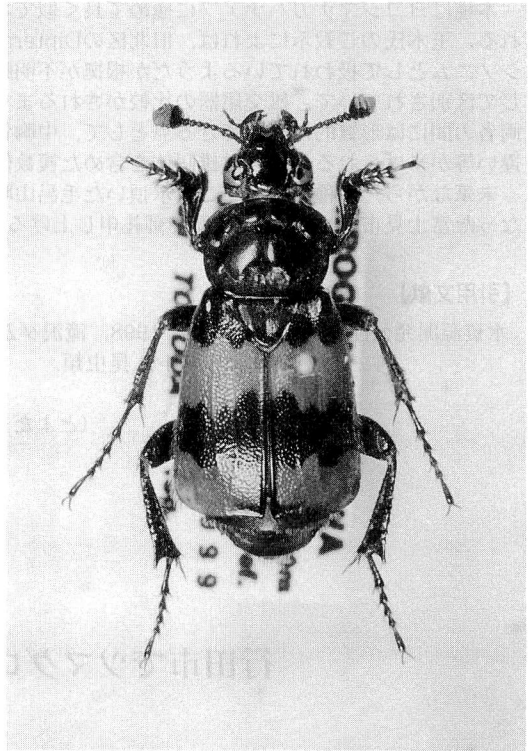
豊田 浩二

Microphorus investigator latifasciatus LEWIS, 1887 ホンドヒロオビモンシテムシは、高地に生息する比較的珍しい種である。埼玉県内での本種の記録は、野沢(1989)の大滝村中津川山で採集されたものが唯一のようである。筆者はやはり大滝村の中津川で本種を採集する機会に恵まれたので、状況等を含めて報告する。

1♂1♀, 23.IX.1999, 大滝村中津川溪谷広河原沢(南天山付近), 筆者採集, 保管(図)。

採集地点は標高1,000m付近で沢ぞいに走る林道上である。採集に至るより1週間前、同地を訪れた筆者と新井氏は、林道を凄い勢いで走り去る4WDの乗用車と、その先でひかれたばかりのイノシシを目撃した。確固たる証拠は無いものの、状況から判断してこの車が引き逃げしたものである疑いは大きかった。ふつうならここで「かわいそうに」と思うのだろうが、このとき筆者の頭に浮かんだのは「やった!、シテムシがタコ採りだ!!!」という、腐肉系昆虫大好き虫屋のねじれ曲がった(もとい、純粋な)発想であった。

イノシシを道脇のやや湿り気のある場所に移動し、1週間後に再び訪れると、その毛皮と地面の隙間からはおびただしい数のシテムシ、チビシテムシが採集され、その中に本種の姿もあった。同行した新井氏はヨツボシモンシテムシを採り、「人生で初めて、赤い紋のあるシテムシを採った!」と大変喜ばれていた。筆者もそうであったが、図鑑で見なれたはずのあの姿を初めて目の当たりにすると、なにか“やっと出会えた”ような感じでもっとうれしいものである。



ホンドヒロオビモンシテムシの♂

雛倉(1999)でも触れられているとおり、本種は秋季にはより低所に移動するようで、今回も標高わずか1,000mで得られた事がその証拠であろう。しかしながらこうした種が見られるのは背後に控える甲武信ヶ岳や十文字峠のような2,000m級の山々があればこそであり、奥秩父にあってその生息場所はおのずと限られてこよう。

末筆ながら、文献調査等で御世話になった東京農業大学昆虫分類研究室の岸本年郎博士、同研究室の新井志保氏に厚く御礼申し上げる。

〔引用文献〕

野沢 雅美, 1989. シテムシ類の採集記録. 埼玉動物研通信, (8): 22.

雛倉 正人, 1999. 大滝村雁坂峠とその周辺の甲虫類(第1報). 寄せ蛾記, (92): 2733-2752.

大滝村のジョウザンナガハナアブ

豊田 浩二

筆者は寄せ蛾記92号にて大滝村で得られたヨコジマナガハナアブを報告したが、玉木長寿氏による再検の結果、水資源開発公団滝沢ダム建設所（1998）で県内から初めて記録された稀種のジョウザンナガハナアブであることが判明したので、ここに訂正するとともに本種についての若干の知見を触れておく。

Temnostoma vespiforme (LINNAEUS) ヨコジマナガハナアブ 1♂

→ *T. jozankeanum* (MATSUMURA) ジョウザンナガハナアブ 1♀

その他のデータはそのままである。

本種はヨコジマナガハナアブに極めて良く似ており、素人目には区別がつきにくいものと思われる。玉木氏のご教示によれば、旧北区のDipteraのカatalogでは本種はヨコジマナガハナアブのシノニムとして扱われているようだが根拠が不明瞭であり、その他の論文、リスト等では別種として区別されていて、雄交尾器の比較がされるまでは別種として取り扱うのが妥当のようである。両者の間には形質的に区別できる点として、中胸背板の斑紋の形状が異なることや腹部の横帯の違い等が挙げられる。今後は雄個体を含めた複数個体どうしによる検討が望まれる。

末筆ながら、本種についてご教示頂いた毛呂山町の玉木長寿氏に、また訂正に際して御世話になった富士見市の小田 博氏に厚く御礼申し上げます。

【引用文献】

水資源開発公団滝沢ダム建設所, 1998. 滝沢ダム環境現況調査 (第3回滝沢ダム環境委員会資料)
— 生息確認種リスト, 昆虫類.

(とよだ こうじ 〒355-0221 比企郡嵐山町菅谷686)

行田市でツマグロキチョウを採集

伊東 憲正

本県では近年の採集記録の少ないツマグロキチョウを、行田市で採集しているので報告する。なお、貴重な標本を恵与していただいた山元正雄氏に感謝申し上げます。

採集個体：ツマグロキチョウ 1♂

採集地：行田市持田

採集日：1999年10月4日

採集者：山元 正雄

(いとう のりまさ 〒185-0036 東京都国分寺市高木町3-13-14-201)

昆虫誌プラス (4)

埼玉昆虫談話会

当会は、1999年に、埼玉県産昆虫9,360種をリストした『埼玉県昆虫誌』別巻を刊行した。

本報文は、別巻刊行後に明らかになった埼玉県初記録種を含む報文を中心に、学名・和名の変更、種の削除などを適宜まとめて紹介するものである。

まとめ方や閲覧文献などの詳細については、本報文の連載初回である『寄せ蛾記』93号p.2803を参照されたい。なお、本報文は、しばらくは『寄せ蛾記』の編集責任者である碓井徹がまとめを担当するが、担当がしっかりと目を通せる文献は、一応、以下の通りである。

寄せ蛾記	トンボ公園だより (寄居町にトンボ公園を作る会)
埼玉動物研通信 (埼玉県動物研究会)	埼玉生物 (埼玉県高等学校生物研究会)
房総の昆虫 (千葉県昆虫談話会)	Gracile (関西トンボ談話会)
TOMBO (日本トンボ学会)	AESCHNA (トンボ研究会)
Rostria (日本半翅類学会)	Cicada (日本セミの会)
蝶と蛾・やどりが (日本鱗翅学会)	昆虫と自然・月刊むし・インセクタリアム

上記の文献以外に、埼玉県初記録種を含む報文を發表された方、あるいはそのような文献をご存じの方は、ぜひ碓井までご一報いただきたい (できれば、その別刷やコピーと一緒にいただけると嬉しいです)。

【埼玉県初記録種】

HOMOPTERA 同翅目

- ◆ 豊田 浩二 (2000) 寄せ蛾記 (96): 2911

STENORRHYNCHA 腹吻亜目

Aphididae アブラムシ科

Stomaphis yanonis TAKAHASHI, 1918 ヤノクチナガオオアブラムシ

COLEOPTERA 鞘翅目

- ◆ 石蔵 拓 (2000) 寄せ蛾記 (96): 2896-2901

Carabidae オサムシ科

Leptocarabus harmandi (LAPOUGE) ホソヒメクロオサムシ

Buprestidae タマムシ科

Poecilonota kamikochiana (Obenberger, 1940) エサキキンヘリタマムシ

Chrysobothris igai Y.KUROSAWA, 1948 ヤマムツボシタマムシ

Elateridae コメツキムシ科

Acteniceromorphus nipponensis OHIRA ニホンフトヒラタコメツキ

Lycidae ベニボタル科

Macrolycus excellens NAKANE オオクシヒゲベニボタル

Cantharidae ジョウカイボン科

Yukikoa wittmeri (NAKANE) キイロシリブトジョウカイ

Melandryidae ナガクチキムシ科

Dapsiloderus nomurai (NAKANE et HAYASHI, 1955) ヒイロホソナガクチキ

Meloidae ツチハンミョウ科

Zonitis cothurnata MARSEUL ツマグロキゲンセイ

Chrysomelidae ハムシ科

Hesperomorpha hirsuta (JACOBY) ケバクロナガハムシ

Anthribidar ヒゲナガゾウムシ科

Phyllobius longicornis ROELOFS リンゴヒガナガゾウムシ

Curculionidae ゾウムシ科

Magdalis nohirai MORIMOTO ノヒラツツゾウムシ

◆ 阿部 功 (2000) 寄せ蛾記 (96): 2901

Carabidae オサムシ科

Leistus obtusicollis BATES, 1883 クロキノカワゴミムシ

◆ 豊田 浩二 (2000) 寄せ蛾記 (96): 2902-2910

Dytiscidae ゲンゴロウ科

Potamonectes hostilis (SHARP, 1884) コシマチビゲンゴロウ

Carabidae オサムシ科

Elaphropus nipponicus (HABU et BABA, 1967) セダカコミズギワゴミムシ

Trichotichnus (Trichotichnus) daibosatsunis KASAHARA, 1991

ダイボサツツヤゴモクムシ

Silphidae シデムシ科

Apteroloma discicolle (LEWIS, 1893) ムナグロホソツヤシデムシ

Staphylinidae ハネカクシ科

Nazeris optatus (SHARP, 1889) ヒメアバタコバネハネカクシ

Philonthus liopterus SHARP, 1889 コゲチャコガシラハネカクシ

Stenus macies SHARP, 1874 ドウボソメダカハネカクシ

Carphacis striatus (OLIVIER, 1794) ハネスジキノコハネカクシ

Lordithon irregularis (WEISE, 1877) ハスオビキノコハネカクシ

Eucnemidae コメツキダマシ科

Otho spondyloides (GERMAR, 1818) ノコヒゲフトコメツキダマシ

Elateridae コメツキムシ科

Kibunea ignicollis (LEWIS, 1894) キンムネヒメカネコメツキ

Nitidulidae ケシキスイムシ科

Soronia fracta REITTER, 1884 オオキマダラケシキスイ

Librodor pantherinus (REITTER, 1879) ヒョウモンケシキスイ

Silvanidae ホソヒラタムシ科

Ahasverus advena (WALTL, 1832) カドコブホソヒラタムシ

Coccinellidae テントウムシ科

Scymnus syoitii SASAJI, 1971 キイロヒメテントウ

Halyzia sedecimguttata (LINNAEUS, 1758) シロジュウロクホシテントウ

Corylophidae ミジンムシ科

Alloparmulus rugosus (MATTHEWS, 1899) チャイロミジンムシ

Mycetophagidae コキノコムシ科

Litargus unifasciatus REITTER, 1889 フタモンヒメコキノコムシ

Tetratomidae キノコムシダマシ科

Abstrulia japonica (MIYATAKE, 1955) マダラキノコムシダマシ

Melandryidae ナガクチキムシ科

Lederia japonica REITTER, 1891 チビノミナガクチキ

Stolius vagepictus LEWIS, 1895 ヨツボシキバネナガクチキ

Rhipiphoridae オオハナノミ科

Pelecotomoides tokejii NOMURA et NAKANE, 1959 クチキオオハナノミ

Tenebrionidae ゴミムシダマシ科

Ceropria laticollis FAIRMAIRE, 1903 フトナガニジゴミムシダマシ

Salpingidae チビキカワムシ科

Lissodema pictipenne LEWIS, 1895 フタオビチビキカワムシ

Curculionidae ゾウムシ科

Larinus griseopilosus ROELOFS, 1873 シラクモゴボウゾウムシ

Notaris oryzae (ISHIDA, 1902) クロイネゾウモドキ

Procas biguttatus FAUST, 1882 オオクニイネゾウモドキ

Protacalles monticola VOSS, 1957 ミヤマクチカクシゾウムシ

Scolytidae キクイムシ科

Ficiphagus goliatoides (MURAYAMA, 1955) ゴリアテキクイムシ

- ◆ 新井 志保 (1999) 寄せ蛾記 (90): 2671

Staphylinidae ハネカクシ科

Astenus setifer CAMERON, 1930

※ これまでの『昆虫誌プラス』で見落としていた。豊田浩二氏よりご指摘をいただいた。

- ◆ MARUYAMA, M. (2000) A Revision of the Myrmecophilous Genus *Aspidobactrus* (Coleoptera: Staphylinidae: Aleocharinae). *Sociobiology*, 35(1): 149-173.

Staphylinidae ハネカクシ科

Aspidobactrus toyodai MARUYAMA

※ 本種は、東松山市の都幾川を基準産地として記載された好蟻性のヒゲトハネカクシの新種。本文献は豊田浩二氏よりご教示いただいた。

- ◆ 石蔵 拓 (1998) 寄せ蛾記 (88): 2521-2582

Cerambycidae カミキリムシ科

Leptostrangalia hosohana (OHBAYASHI) ホソハナカミキリ

Stenodryas clavigera clavigera BATES アメイロカミキリ

※ 『埼玉県昆虫誌』別巻で、吉越 ほか(1999)によって、寄せ蛾記88号の埼玉県産カミキリリスト(石蔵,1998)から埼玉県新記録のカミキリ類が8種追加されたが、上記2種は、その際に新記録種のリストから漏れていた種。すなわち、吉越 ほか(1999)では、石蔵 (1998) から埼玉県新記録のカミキリ類を上記2種を含め10種追加すべきであった。

- ◆ 森川 清志 (1999) 天牛通信 (2): 9

Cerambycidae カミキリムシ科

Stenomalus takaosanus OHBAYASHI, 1958 タカオメダカカミキリ

- ◆ 著者不明 (2000) 天牛通信 (3): 11

Cerambycidae カミキリムシ科

Oberea sobosana OHBAYASHI, 1956 ソボリンゴカミキリ

※ 『埼玉の未記録カミキリその後』というタイトルで著者は明示されていないものの、本種の具体的な採集記録は記述されている。なお、前種を含め、天牛通信からの2種は石蔵拓氏よりご教示いただいた。

- ◆ 中村 修美 (1999) 神泉村の土壤動物 pp. 139-145.

Staphylinidae ハネカクシ科

Thinoharis japonica BERNHAVER

※ 上記報文は、『神泉村誌 自然編 目録』所収。中村修身氏よりいただいた。同定は、直海俊一郎氏による。

HYMENOPTERA 膜翅目

- ◆ 南部 敏明 (2000) 埼玉県動物研通信 (34): 24

Braconidae コマユバチ科

Helconidea nipponica (WATANABE, 1972) ニッポンツノコマユバチ

Roproniidae イシハラクロバチ科

Ropronia ishiharai YASUMATSU, 1956 イシハラバチ

Tiphiidae コツチバチ科

Tiphya sudai TUNEKI, 1985 スダコツチバチ

Halictidae コハナバチ科

Sphecodes sapporoensis TUNEKI, 1983 サッポロヤドリコハナバチ

※ 上記報文は『埼玉県から新たに記録されたハチ目 (4)』として、上記4種の他に、ベッコウバチ科のホソトゲアシベッコウを加えて5種を県初記録としているが、ホソトゲアシベッコウに関しては、『寄せ蛾記』95号で南部氏が“埼玉県初記録”としてすでに記録している。

DIPTERA 双翅目

- ◆ 伊東 憲正 (1999) はなあぶ (8): 56

Syrphidae ハナアブ科

Merodon equestris (FABRICIUS, 1794) スイセンハナアブ

※ 上記報文は伊東憲正氏よりいただいた。なお、玉木長寿氏からは、『本種は、過去に本県で採集されている可能性はかなり高いが、知る限りではこの報文が本種の埼玉県初記録となる。』とのコメントが寄せられている。

【昆虫誌プラスへの訂正など】

DIPTERA 双翅目

- ◇ 寄せ蛾記94号掲載の『昆虫誌プラス (2)』において、スズキベッコウハナアブの埼玉県初記録の報文は、松浦誠氏よりご教示いただいたものである。
- ◇ 同、ハナアブ科の学名を *Synphidae* としたのは誤りで、*Syrphidae* が正しい。玉木長寿氏よりご指摘いただいた。

LEPIDOPTERA 鱗翅目 (蛾類)

- ◇ 寄せ蛾記94号掲載の『昆虫誌プラス (2)』において、神部 ほか (2000) からヤガ科の10種を埼玉県初記録として記述したが、当コーナー担当の確井の該当報文の読み間違いで、正しくは、後述のように9種が埼玉県初記録となる。この件は、神部正博氏よりご指摘いただいた。これは、(4265) *Anomis longipennis* Sugi ムラサキオオアカキリバ について、本種は過去に埼玉県から1個体が記録されていたものの、当該標本を検した結果、それがハガタキリバであったことが同報文で指摘され(すなわち、この時点では埼玉県産のヤガ科は1種減となる)、あらたに明らかにムラサキオオアカキリバであるものを埼玉県から記録した、という経緯による。すなわち、埼玉県産のヤガ科としては、(-1種, +10種)ということで、9種が同報文によって、埼玉県初記録としてリストされたことになる。当コーナー末尾の“目ごとの科・種数 最新情報”でも、蛾類の種数と総種数については1種減じる措置をとった。

【埼玉県昆虫誌への訂正記事一覧】

HYMENOPTERA 膜翅目

- ◆ 南部 敏明 (2000) 埼玉県動物研通信 (34): 24

アシプトコバチ科のナンプアシプトコバチの学名が変更。“*nambui*”がシノニムで消えてしまったとのこと。

表 埼玉県産昆虫 目ごとの科・種数 最新情報

		埼玉県昆虫誌 別巻 (1999)		前回までの 変更の合計		今回まとめ た変更の計		最新の科数 と種数	
目	名	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
COLLEMBOLA	トビムシ目	9科	38種					9科	38種
PROTURA	カマシムシ目	4科	26種					4科	26種
DIPLURA	コムシ目	3科	4種					3科	4種
MICROCORYPHIA	イシノミ目	1科	1種					1科	1種
THYSANURA	シミ目	1科	1種					1科	1種
EPHEMEROPTERA	カゲロウ目	10科	72種					10科	72種
ODONATA	トンボ目	11科	90種					11科	90種
PLECOPTERA	カワゲラ目	9科	51種					9科	51種
BLATTARIA	ゴキブリ目	2科	4種					2科	4種
MANTODEA	カマキリ目	1科	5種					1科	5種
ISOPTERA	シロアリ目	1科	1種					1科	1種
ORTHOPTERA	直翅目	12科	121種		+1種			12科	122種
PHASMIDA	ナナフシ目	1科	5種					1科	5種
DERMAPTERA	ハサミムシ目	4科	13種					4科	13種
GRYLLOBLATTODEA	カマシムシ目	1科	4種					1科	4種
PSOCOPTERA	チャタテムシ目	1科	1種					1科	1種
MALLOPHAGA	ハジラミ目	1科	1種					1科	1種
ANOPLURA	シラミ目	5科	10種					5科	10種
THYSANOPTERA	アザミウマ目	2科	13種					2科	13種
HETEROPTERA	異翅目	38科	362種					38科	362種
HOMOPTERA	同翅目	36科	619種		+2種	+1種		36科	622種
AUCHENORRHYNCHA	頸吻亜目	(17科367種)		(+2種)				(17科368種)	
STENORRHYNCHA	腹吻亜目	(19科252種)				(+1種)		(19科254種)	
MEGALOPTERA	ヘビトンボ目	2科	5種					2科	5種
RAPHIDIOPTERA	ラクダムシ目	2科	2種					2科	2種
NEUROPTERA	アミメカゲロウ目	10科	46種		+3種			10科	49種
COLEOPTERA	鞘翅目	107科	2826種	+1科	+46種	+48種		108科	2916種
STREPSIPTERA	ネジレハネ目	3科	13種					3科	13種
HYMENOPTERA	膜翅目	51科	1069種	+1科	+51種	+4種		52科	1123種
MECOPTERA	シリアケムシ目	2科	18種		+1種			2科	19種
SIPHONAPTERA	ノミ目	8科	30種					8科	30種
DIPTERA	双翅目	87科	1490種		+2種	+1種		87科	1493種
TRICOPTERA	トビケラ目	19科	83種					19科	83種
LEPIDOPTERA	鱗翅目	57科	2336種		+10種	-1種		57科	2345種
	蝶類	(5科135種)						(5科135種)	
	蛾類	(52科2201種)		(+10種)		(-1種)		(52科2210種)	
		32目 501科 9,360種		+2科+116種		+53種		503科 9,529種	
		(埼玉県昆虫誌 別巻刊行時)		(前号までの計)		(本号での計)		(本誌 刊行時)	

特集

埼玉昆虫談話会・日本鱗翅学会関東支部・日本蛾類学会共催

1999年秋の集い報告

昨年（1999年）の9月26日に埼玉昆虫談話会・日本鱗翅学会関東支部・日本蛾類学会による「1999年秋の集い」が催された。この集会は、毎年春と秋の2回、日本鱗翅学会関東支部が企画し、開催しているものである。1998年の「秋の集い」は、千葉県昆虫談話会との共催形式をとって行われ、鱗翅学会会員以外の多数の参加者があったことから、今回は当会との共催が企画されたわけである。特に、埼玉昆虫談話会との共催ということで、大著「埼玉県昆虫誌」の完成を広く知らしめたく「埼玉県コーナー（S-1～S-3）」を特別に建てた。S-1は牧林 功会長による「埼玉県昆虫誌はどのようにしてできたか」、S-2は星野正博氏による「埼玉県の蝶類」、そしてS-3萩原 昇氏による「埼玉県の蛾類」である。その詳細は、この特集の後半部分である「要旨集再録」をご覧ください。講演全数13題のうち、一般講演を含め当会関係者が7名という、まさに埼玉が席捲した会であったという印象が残った。それでは当会からの参加者を代表して、桜田 敦氏に印象記をお寄せいただいた。ごゆっくりとお読み下さい。

（小堀文彦）

「秋の集い」に参加して

桜田 敦

去る9月26日、東京の「カンダパンセ」に於いて、日本鱗翅学会関東支部・日本蛾類学会及び埼玉昆虫談話会共催の講演会に出席いたしました。もう何年も前のことですが、浦和別所沼会館ホールでの会「自然保護セミナー」に行ったとき、埼玉昆虫談話会を知り、入会したと記憶しております。その時の自然保護セミナーも日本鱗翅学会との共催だったのであります。

それ以来のことでありましたが、当日は埼玉昆虫談話会がメインの会らしく、日頃金曜セミナーなどでお目にかかる会員の方々の講演を拝聴させていただくことが出来ました。「蝶と私」の阿部氏

は、信州上田の抜群の環境の中で、学生時代に綿密な調査記録を残されておりました。また思いがけずも、当時の紅顔可憐なる美少年の頃の写真を拝し、自分のその時代を振り返り、羨ましいやら恥ずかしいやらの思いでした。また、生態写真も美しいものでした。

「埼玉県昆虫誌」発刊の経緯を牧林会長が述べられました。現在すべて配布され、在庫はないとのこと。かの大英博物館から引き合いがあったとも聞いており、その内容の素晴らしいこととお宝を持っているような満足感があります（宝の持ち腐れかも）。

「埼玉県の蝶」の星野氏の発表は私にとって、もっとも身近なことですので関心がありました。全国的な規模でしょうが、レッドリストに載る種が増えていく憂いがあり、自然環境の維持が重要且つ困難な問題なのだとの思いを新たに致しました。

「埼玉県の蛾類」の萩原氏の発表では、この世界、未だ記録が増加の可能性があると同われました。調査資料の中で、故市川和夫氏の広範な活躍が今更ながら知られる思いでした。

「ミドリシジミの雌多型とは何か」の松井氏の発表では、個体群の激減で研究継続が困難だとのこと印象に残りました。「トリパネチョウの来た道」の森中氏の発表はハイレベルなもので、正直私ごときでは理解するにほど遠いことでしたが、談話会の総会のオークションで拝見する競りを思い出し、同氏のお人柄の広さを垣間見た思いです。

以上、貧しい感想ですが、何が判らないかが判らない会員として、これからも埼玉昆虫談話会に顔を出しますが、どうぞご指導下さいます様お願いいたします。私にとって充実した一日でした。

プログラム

- A-1 放蝶温室におけるオオゴマダラの日周活動 瀬田和明
- A-2 丹沢の蛾 石川和宏
- A-3 蝶と私 阿部 功
- B-1 山形県朝日連峰の高山蛾調査 飯塚新真
- B-2 地球温暖化などによる気象変動と蛾類の北上現象 柳田慶浩
- B-3 アゲハの視覚的刺激による記憶 川崎悦子
- S-1・埼玉県昆虫誌はどのようにしてできたか 牧林 功
- S-2・埼玉県の蝶類 星野正博
- S-3・埼玉県の蛾類 萩原 昇
- C-1・ミドリシジミの♀多型とはなにか 松井安俊・松井英子
- C-2・マダラガの魅力 岸田泰則
- C-3・トリバネチョウウの来た道 森中定治
- C-4・東京のスカシバ 池田真澄

講演要旨再録

S-1 「埼玉県昆虫誌」は どのようにしてできたか

牧林 功 (埼玉昆虫談話会会長)

埼玉昆虫談話会は県を代表するにふさわしい蝶としてミドリシジミを選定し、これを「県の蝶」に推薦することに決定した。まず会の中に「ミドリシジミ委員会」を発足させ、この委員会を中心に「ミドリシジミを見る集い」、「ミドリシジミを知る集い」の開催など、多方面にわたり運動を展開した。

その成果が実って、1991年11月14日(埼玉県民の日)の「埼玉県民の集い」の席上、県知事より「ミドリシジミを“埼玉県の蝶”に制定する」ことが発表された。以来、県はサクラソウ(花)、ケヤキ(木)、シラコバト(鳥)、ムサシトミヨ(魚)、ミドリシジミ(蝶)を五つのシンボルとして使用している。

「県の蝶」の効果は大きく、県は制定後、「県の蝶ミドリシジミの森づくり」に取り組み、県内五ヶ所に「ミドリシジミの森」を設けたり、植樹事業でもミドリシジミの食樹であるハンノキを植栽するなどの配慮をしている。またこのような取り組みに会は常にかかわってきた。このため公的機

関の「埼玉昆虫談話会」の信用度はかなり高い。

そんな折、「(株)テレビ埼玉」が開局十五周年を迎え、記念事業として行われた「日本一のふる里づくり」で、当会が表彰された。ミドリシジミを県の蝶にする運動の展開が評価されたのである。

その頃、埼玉昆虫談話会は創立30周年を迎えようとしていた。虫の好きな連中が好きなことをやっていたに過ぎないのだが、30年間も会誌を発行し、記録を蓄積してきたことには、それなりの重みが存在する。

埼玉県には県教育委員会が編纂した「埼玉県動物誌」が存在する。この中で取り上げられた昆虫は4219種であるが、既に未記録種が多数記録されていて、古いものになっていた。そこで昆虫だけでも最新の記録を網羅したものを作りたい。これを創立30周年の記念事業にすることにした。

“ディスカバー・ご近所”を合い言葉に、身近な記録の発掘を呼びかけると共に、採集調査会を実施し、専門外の死蔵標本をよみがえらせる「標本の同定をし合う会」を設け、エキスパートに見てもらおう。それらは会誌「寄せ蛾記」にできるだけ発表する。また記念事業のキャンペーン紙「緑友路地」を月刊で発行し、ムード作りと意思の統一を図る。

「標本を同定しあう会」は作成準備委員会と連絡し、同日に行った。このことで委員でなくとも、気楽に誰でもが委員会に参加できた。

資金面では予約購入を募集し、一定の販路を確保するとともに、(株)テレビ埼玉、(株)武蔵野銀行、埼玉県などから助成金を受けた。これについては会の信用度がものをいったと考えられる。このため会の一般会計とはまったく別に処理することができた。

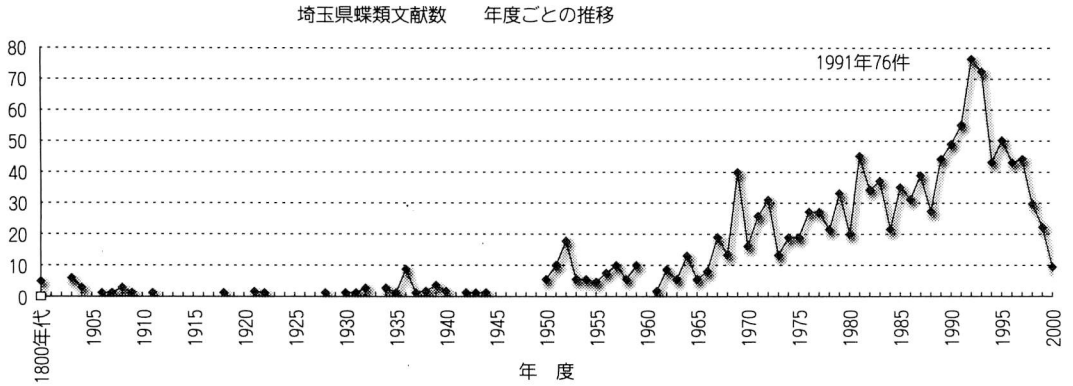
版下は完全版下作成で印刷所にまわしたのだが、これについてはCP操作の達人、確井 徹会員の独壇場で、彼なくしてはあのような安価にはできなかったであろう。またデザイン、作画については小堀文彦会員によって、スマートに仕上がったと思っている。

かくして「埼玉県昆虫誌全3巻4冊、別巻1冊」は、9,360種を掲載し、今年3月完結した。1800pp.、厚さ10cm、重さ5kg.の代物である。完売し在庫はない。

(まきばやし いさお)

S-2 埼玉県の蝶類

星野 正博 (埼玉昆虫談話会)



文献で見る昆虫相 データベースから見えること (埼玉県昆虫誌に補遺を加えた)

ベニモンカラスジミ, ウラナミジャノメ, ヒメイチモンジセセリは誤報として不採用。

昆虫誌 蝶類のコンセプト 文献目録の充実を中心課題とした, 埼玉県動物誌(1978): 1976年調査終了の以前以降を比較

4 調査密度を文献数で比較すると (分布図は種別に92市町村の分布を掲載した)

- 1 年度毎の文献数推移 1316文献 (1000番台, 2000番台文献) の発行年毎に集計
- 2 誰が埼玉のチョウを報告しているか (20件以上)
 - 市川和夫 43件 碓井 徹 42件 原 聖樹 40件 巢瀬 司 38件
 - 加藤輝年 26件 星野正博 25件 石塚正彦 24件 大野正男 21件

- ア 市町村別記録文献数 (1文献に複数の市町村があればそれぞれ1カウント)

浦和市 195	所沢市 151	飯能市 136
大滝村 132	秩父市 97	大宮市 68
入間市 58		
- 蝶のいない町

3 文献記録のある種 → (表1参照) 分類体系はScoble(1992)による 埼玉県内で1945年以降の記録種は138種, 誤報を除くと135種。

- イ 種別文献数 (1文献に複数の種があればそれぞれ1カウント)
 - モンシロチョウ 265, スジグロシロチョウ 254, キチョウ 245, コミスジ 237, モンキチョウ 234, カラスアゲハ 228, キタテハ 222, ベニシジミ 220, ヤマトシジミ 220, キアゲハ 215, ナミアゲハ 214, ツバメシジミ 211, ルリタテハ 209, ツマキチョウ 206, イチモンジチョウ 204, ダイミョウセセリ 201, ルリシジミ 198, ゴマダラチョウ 195, ヒメウラナミジャノメ 193, クロアゲハ 186, ミドリシジミ 184,

アゲハチョウ科12種 (ホソオチョウとシロオビアゲハ追加), シロチョウ科9種 (ヤマキチョウ追加), シジミチョウ科40種 (ウラミスジシジミとムラサキツバメ追加), テングチョウ亜科1種, マダラチョウ亜科3種 (カバマダラ追加), タテハチョウ亜科37種 (アカボシゴマダラ, タテハモドキ追加), ジャノメチョウ亜科15種 (クロコノマチョウ追加), セセリチョウ科18種である。 () 内は埼玉県動物誌に対する比較。

5 1976年頃までとの比較

埼玉県動物誌(1978) 市川和夫・原聖樹 [埼玉の蝶類] 掲載種は 120+偶産6種 埼玉県動物誌に於いて, 埼玉県の蝶相について,

表1 埼玉県で採集記録のある蝶の種類数

科・亜科名	種名	土着種 (準土着種)	県内越冬不能種	土着確認不明種	採集例が近年無い種	放蝶等	偶産種
アゲハチョウ科		ウスバシロチョウ, ナミアゲハ, キアゲハ, クロアゲハ, カラスアゲハ, ミヤマカラスアゲハ, オナガアゲハ, モンキアゲハ, ジャコウアゲハ, アオスジアゲハ 10種				ホソオチョウ シロオビアゲハ	
シロチョウ科		モンシロチョウ, スジグロシロチョウ, エゾスジグロシロチョウ, モンキチョウ, キチョウ, ツマグロキチョウ, スジボソヤマキチョウ, ツマキチョウ 8種		ヤマキチョウ			
シジミチョウ科		ムラサキシジミ, ウラゴマダラシジミ, ウラキシジミ, アカシジミ, ウラナミアカシジミ, ムモンアカシジミ, ミズイロオナガシジミ, ウスイロオナガシジミ, オナガシジミ, ウラクロシジミ, ウラミスジシジミ, ミドリシジミ, メスアカミドリシジミ, アイノミドリシジミ, フジミドリシジミ, オオミドリシジミ, エゾミドリシジミ, ハヤシミドリシジミ, トラフシジミ, カラスシジミ, ミヤマカラスシジミ, コツバメ, ベニシジミ, ゴイシジミ, クロシジミ, ヤマトシジミ, ルリシジミ, スギタニルリシジミ, ツバメシジミ, クロツバメシジミ, ミヤマシジミ, ウラギンシジミ 32種	ウラナミシジミ	ジョウザンミドリシジミ	ウラジロミドリシジミ キマダラルリツバメ シルビアシジミ アサマシジミ ヒメシジミ		ムラサキツバメ
テングチョウ 亜科		テングチョウ 1種					
マダラチョウ 亜科				アサギマダラ			スジグロカバマダラ カバマダラ
タテハチョウ 亜科		ウラギンスジヒョウモン, オオウラギンスジヒョウモン, ミドリヒョウモン, クモガタヒョウモン, メスグロヒョウモン, ウラギンヒョウモン, ギンボシヒョウモン, イチモンジチョウ, アサマイチモンジ, フタスジチョウ, コミスジ, ミスジチョウ, オオミスジ, ホシミスジ, サカハチチョウ, キタテハ, シータテハ, エルタテハ, ルリタテハ, キベリタテハ, ヒオドシチョウ, クジャクチョウ, ヒメアカタテハ, アカタテハ, スミナガシ, コムラサキ, ゴマダラチョウ, オオムラサキ 28種			コヒョウモンモドキ ヒョウモンチョウ オオウラギンヒョウモン オオイチモンジ	アカボシゴマダラ	ツマグロヒョウモン リュウキュウムラサキ メスアカムラサキ タテハモドキ
ジャノメチョウ 亜科		ヒメウラナミジャノメ, ジャノメチョウ, ツマジロウラジャノメ, ウラジャノメ, ヒメキマダラヒカゲ, クロヒカゲ, ヒカゲチョウ, サトキマダラヒカゲ, ヤマキマダラヒカゲ, ヒメジャノメ, コジャノメ 11種		クロコノマチョウ クロヒカゲモドキ	キマダラモドキ		ウスイロコノマ チョウ
セセリチョウ科		ミヤマセセリ, ダイミョウセセリ, アオバセセリ, キバネセセリ, ギンイチモンジセセリ, コチャバネセセリ, ホソバセセリ, スジグロチャバネセセリ, ヘリグロチャバネセセリ, コキマダラセセリ, ヒメキマダラセセリ, キマダラセセリ, オオチャバネセセリ, ミヤマチャバネセセリ 14種	イチモンジセセリ チャバネセセリ		ホシチャバネセセリ アカセセリ		
種数合計		104種	3種	5種	12種	3種	7種

誤認種: ベニモンカラスシジミ, ウラナミジャノメ, ヒメイチモンジセセリ

表3 レッドリストに見る埼玉県産蝶類の生息状況 (B)

	環境庁 1991	日本鱗翅学会 1993	埼玉県 1996																												
絶滅種 (Ex)		ウラジロミドリシジミ カラスシジミ キマダラルリツバメ シルビアシジミ アサマシジミ オオウラギンヒョウモン オオイチモンジ ホシチャバネセセリ アカセセリ	キマダラルリツバメ (低山帯から記録があり, Ex) アサマシジミ (山地帯から記録があり, Ex) シルビアシジミ (台地・丘陵帯～低地帯から記録があり, いずれの地域でも Ex) ヒョウモンチョウ (亜高山帯から記録があり, Ex) オオウラギンヒョウモン (亜高山帯と低地帯から記録があり, いずれの地域でも Ex) オオイチモンジ (亜高山帯から記録があり, Ex) コヒョウモンモドキ (山地帯から記録があり, Ex) ホシチャバネセセリ (山地帯・低山帯に記録があり, 両地域で Ex) アカセセリ (山地帯に記録があり Ex)																												
絶滅危惧種 (E)	オオウラギンヒョウモン	ミヤマカラスシジミ クロシジミ ミヤマシジミ	カラスシジミ (山地帯～台地・丘陵帯に分布し, いずれの地域でも E) ミヤマカラスシジミ (低山帯に分布し, E) クロシジミ (低山帯～低地帯に記録があり, 低山帯～台地・丘陵帯で E, 低地帯では Ex) クロツバメシジミ (山地帯・低山帯に分布し, 両地域で E) ミヤマシジミ (山地帯～低地帯に記録があり, 山地帯は R'e, 低地帯で E, 他地域では Ex)																												
危急種 (V)		ツマグロキチョウ ウスイロオナガシジミ ミスジチョウ オオムラサキ	ウスイロオナガシジミ (山地帯・低山帯に分布し, 両地域で V)																												
希少種 (R)	キマダラルリツバメ クロシジミ クロツバメシジミ オオイチモンジ オオムラサキ	ジャコウアゲハ ウラゴマダラシジミ ムモンアカシジミ ウラナミアカシジミ オナガシジミ オオミドリシジミ ハヤシミドリシジミ コツバメ クロツバメシジミ オオウラギンシジミ ウラギンシジミ アサマイチモンジ エルタテハ キベリタテハ ヒオドシチョウ コムラサキ ウラジャノメ ツマジロウラジャノメ ジャノメチョウ ミヤマセセリ キバネセセリ コキマダラセセリ ホソバセセリ	ジャコウアゲハ (台地・丘陵帯～低地帯に分布し, すべての地域で R) ツマグロキチョウ (台地・丘陵帯と低地帯に分布し, 大宮台地以西で V, 他地域で R) ムモンアカシジミ (山地帯～台地・丘陵帯に分布し, 台地・丘陵帯で Ex, 他地域では R) フジミドリシジミ (山地帯に分布し, R) ウラジロミドリシジミ (低山帯に分布し, R) ハヤシミドリシジミ (山地帯・低山帯に分布し, いずれの地域でも R) ジョウザンミドリシジミ (低山帯に分布し, R) アイノミドリシジミ (山地帯に分布し, R) ツマジロウラジャノメ (山地帯・低山帯に分布し, いずれの地域でも R) ウラジャノメ (亜高山帯・山地帯に分布し, いずれの地域でも R) ホソバセセリ (山地帯～台地・丘陵帯に分布し, すべての地域で R)																												
<p>県内の一部の地域で R 以上にランクされている種</p>																															
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ウラナミアカシジミ</td> <td>—— 低山帯～低地帯に分布。台地・丘陵帯以西で L p, 低地帯で E)</td> </tr> <tr> <td>ウラゴマダラシジミ</td> <td>(山地帯～低地帯に分布。山地帯では R, 荒川以西低地帯で L p, 大宮台地では Ex, 東部低地帯では E.)</td> </tr> <tr> <td>オナガシジミ</td> <td>(山地帯から低山帯にかけて分布し, いずれの地でも L p)</td> </tr> <tr> <td>ウラキンシジミ</td> <td>(山地帯・低山帯に分布し, 低山帯では R)</td> </tr> <tr> <td>ウラクロシジミ</td> <td>(山地帯・低山帯に分布し, 低山帯では R)</td> </tr> <tr> <td>オオミドリシジミ</td> <td>(山地帯～大宮台地に分布。台地・丘陵帯で R, 低地帯では L p)</td> </tr> <tr> <td>ミドリシジミ</td> <td>(山地帯～低地帯に分布し, 山地帯～台地・丘陵帯では R, 低地帯では L p)</td> </tr> <tr> <td>コツバメ</td> <td>(低山帯～低地帯に分布し, 台地・丘陵帯で R, 低地帯で E)</td> </tr> <tr> <td>ミスジチョウ</td> <td>(山地帯～低地帯に分布し, 台地・丘陵帯で V, 低地帯で Ex)</td> </tr> <tr> <td>ヒオドシチョウ</td> <td>(山地帯～低地帯に分布し, 台地・丘陵帯で R, 低地帯で V)</td> </tr> <tr> <td>コムラサキ</td> <td>(山地帯～低地帯に分布し, 低山帯～荒川以西低地帯で R, 大宮台地以西で V)</td> </tr> <tr> <td>オオムラサキ</td> <td>(山地帯～低地帯に分布。丘陵帯以西で R, 荒川以西低地帯で E, 大宮台地以西で Ex)</td> </tr> <tr> <td>ジャノメチョウ</td> <td>(亜高山帯～低地帯に分布。亜高山帯と台地～荒川以西低地帯で R, 大宮台地で V)</td> </tr> <tr> <td>ミヤマセセリ</td> <td>(山地帯から大宮台地まで分布。台地・丘陵帯で R, 低地帯では L p)</td> </tr> </table>				ウラナミアカシジミ	—— 低山帯～低地帯に分布。台地・丘陵帯以西で L p, 低地帯で E)	ウラゴマダラシジミ	(山地帯～低地帯に分布。山地帯では R, 荒川以西低地帯で L p, 大宮台地では Ex, 東部低地帯では E.)	オナガシジミ	(山地帯から低山帯にかけて分布し, いずれの地でも L p)	ウラキンシジミ	(山地帯・低山帯に分布し, 低山帯では R)	ウラクロシジミ	(山地帯・低山帯に分布し, 低山帯では R)	オオミドリシジミ	(山地帯～大宮台地に分布。台地・丘陵帯で R, 低地帯では L p)	ミドリシジミ	(山地帯～低地帯に分布し, 山地帯～台地・丘陵帯では R, 低地帯では L p)	コツバメ	(低山帯～低地帯に分布し, 台地・丘陵帯で R, 低地帯で E)	ミスジチョウ	(山地帯～低地帯に分布し, 台地・丘陵帯で V, 低地帯で Ex)	ヒオドシチョウ	(山地帯～低地帯に分布し, 台地・丘陵帯で R, 低地帯で V)	コムラサキ	(山地帯～低地帯に分布し, 低山帯～荒川以西低地帯で R, 大宮台地以西で V)	オオムラサキ	(山地帯～低地帯に分布。丘陵帯以西で R, 荒川以西低地帯で E, 大宮台地以西で Ex)	ジャノメチョウ	(亜高山帯～低地帯に分布。亜高山帯と台地～荒川以西低地帯で R, 大宮台地で V)	ミヤマセセリ	(山地帯から大宮台地まで分布。台地・丘陵帯で R, 低地帯では L p)
ウラナミアカシジミ	—— 低山帯～低地帯に分布。台地・丘陵帯以西で L p, 低地帯で E)																														
ウラゴマダラシジミ	(山地帯～低地帯に分布。山地帯では R, 荒川以西低地帯で L p, 大宮台地では Ex, 東部低地帯では E.)																														
オナガシジミ	(山地帯から低山帯にかけて分布し, いずれの地でも L p)																														
ウラキンシジミ	(山地帯・低山帯に分布し, 低山帯では R)																														
ウラクロシジミ	(山地帯・低山帯に分布し, 低山帯では R)																														
オオミドリシジミ	(山地帯～大宮台地に分布。台地・丘陵帯で R, 低地帯では L p)																														
ミドリシジミ	(山地帯～低地帯に分布し, 山地帯～台地・丘陵帯では R, 低地帯では L p)																														
コツバメ	(低山帯～低地帯に分布し, 台地・丘陵帯で R, 低地帯で E)																														
ミスジチョウ	(山地帯～低地帯に分布し, 台地・丘陵帯で V, 低地帯で Ex)																														
ヒオドシチョウ	(山地帯～低地帯に分布し, 台地・丘陵帯で R, 低地帯で V)																														
コムラサキ	(山地帯～低地帯に分布し, 低山帯～荒川以西低地帯で R, 大宮台地以西で V)																														
オオムラサキ	(山地帯～低地帯に分布。丘陵帯以西で R, 荒川以西低地帯で E, 大宮台地以西で Ex)																														
ジャノメチョウ	(亜高山帯～低地帯に分布。亜高山帯と台地～荒川以西低地帯で R, 大宮台地で V)																														
ミヤマセセリ	(山地帯から大宮台地まで分布。台地・丘陵帯で R, 低地帯では L p)																														

ての初めてのまとめがなされた。
今回埼玉県蝶類研究小史の中で。黎明期、「揺籃期(1905~1945年)」、第一期黄金時代(1946~1976年)とした1976年以前を境にして、その後の環境変化が蝶相に与えた影響は大きい。

以下、表3のRDBを参照

ア 衰退種 食草は？ ツماغロキチョウ、クロシジミ、ミヤマセセリ、

イ 20年以上あるいは20年近く記録がない種= 県内絶滅？

ウラジロミドリシジミ・キマダラルリツバメ・アサマジミ・オオイチモンジ・オオウラギンヒョウモン・ヒョウモンチョウ・キマダラモドキ・クロヒカゲモドキ・ホシチャバネセセリ・アカセセリシルビアシジミ(1980.10)・ヒメシジミ(1981.07)

ウ 本当にいるの・いたの？

エ 分布域の拡大種 ウスバシロチョウ、モンキアゲハ、 分布図参照

以下、昆虫誌記載の抄録

ウスバシロチョウ

1970年代までは八高線以東の記録はわずかだったが、近年以下のように記録例が多い。
所沢市堀之内(1988年)、入間市宮寺(1991年)、入間市加治丘陵(1992年)、入間市鍵山(1997年)他、毛呂山町前久保(1984年)他、嵐山

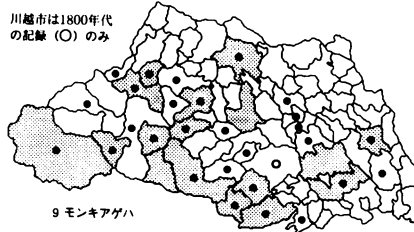
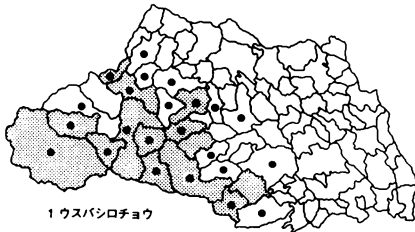
町(1987年)、川越市大東池(1984年)、川越市増形(1995年)、東松山市上唐子(1997年)。
モンキアゲハ

南方系の種で、従来は県西部の丘陵沿いに毎年北上し移入すると考えられ、埼玉県内での土着が疑われていた。1969年5月10日に奥武蔵の二本木峠初記録と思われる1♂が、羽化に失敗し後翅がちぢれた新鮮個体で採集された。この記録は現地での越冬発生を強くうかがわせる。その後土着を示唆する考察・データが提示された。1973年以前の記録は散発的であるが、1969年から始まった奥武蔵グリーンラインの工事(全通は1984年末)に伴い植生破壊の進んだ道路沿いの斜面にカラスザンショウが増えたこと、秩父寄居近郊の農家が栽培するミカン・ユズが食樹となる可能性、多数の春期の記録等から現在では土着したと判断される。群馬県での記録は夏季に多くかつ1978年以降に多くなっているという*、奥武蔵ルートで秩父方面に定着した個体群が移入した可能性が高い。石川県の分布例などから見て積雪地帯で越冬できない理由はなく、栃木県で土着が確認されている**こと等から県内での越冬は充分可能と判断される。今後は越冬蛹の探索による土着の確認が望まれる。現在の主な棲息域は狭山湖と寄居町を結ぶ線の周辺地域とその西側の山地帯の谷すじである。

* 群馬県動物誌、群馬県蝶類誌、 ** 原色日本蝶類生態図鑑。による

オ 生物多様性調査 中間報告、速報を見る。
モンキアゲハは関東全県に記録されている。

6 レッドデータブック(RDB) (ほしの まさひろ)



モンキアゲハ 川口市と鶴ヶ島市に網掛けを追加する(補遺による)

網点の塗りつぶしは1976年以前(「埼玉県の蝶類」の調査終了まで)に記録のあった市町村、黒丸は1977年以降に記録のある市町村を示している。塗りつぶされた地区にその種が全面的に分布していることを示しているのではない。

S-3 埼玉県の蛾類 — 埼玉県昆虫誌の編集を終えて —

萩原 昇 埼玉昆虫談話会

1. はじめに

埼玉県内の蛾類に関する研究は、前埼玉昆虫談話会代表であった故 市川和夫氏の精力的な活動により、1978年に「埼玉県動物誌」としてまとめられ、45科1,402種が記録されると共に、155篇の文献が「埼玉県の蛾類に関する文献」として目録にまとめられた。このことで、県内のほぼ全域を網羅する蛾類のリストが完成したことになるが、「埼玉県動物誌」の発行時点で県内の蛾類の既知種類数は未同定種を含めると1,800種にのぼっていた。また、県の東部・南部に関する調査が不十分であった。

その後、市川和夫氏や埼玉昆虫談話会会員による調査が各地で実施され、次々と調査報告が発表された。しかし、いずれも単報的な報告書で埼玉県全域を網羅するものではなかった。今回、埼玉昆虫談話会の30周年を記念して「埼玉県昆虫誌」

を編集するにあたり、市川和夫の遺業をまとめることを中心に編集を行った。また、故 川辺 湛氏に同定を依頼するなどにより、未同定種が多く十分に記録できなかった小蛾類の記録が大幅に増加した。特に、「埼玉県動物誌」ではハマキガ科の記録が30種であったが今回は166種、同じくメイガ科では154種であったものが323種と大幅に記録を追加した。

また、県の東部・南部に関する調査報告を加え、全体で45科1,402種であった記録に799種を追加し、52科2,201種を記録することができた。一方、蛾類の文献目録に関しては、「埼玉県動物誌」以降のものをまとめ、できる限り最新のものまで含めるように努め、200篇をリストアップした。

2. 埼玉県動物誌以降の県内における蛾類に関する主な調査

(1) 北部・秩父地方

地域名	調査年	調査担当者	記録種数	報告文書名
皆野町	75~80	福嶋義一※	27科535種	「皆野町の鱗翅目」(1982)
武甲山周辺	77~80	福嶋義一ら※	25科479種	「武甲山の鱗翅目」(1987)
大滝村(東大演習林)	78~83	坂田正哉※	23科564種	「秩父演習林蛾類目録」(1983)
児玉町	88~92	市川和夫	30科502種	「児玉町の鱗翅目(蛾類)」(1993)
小鹿野町(角合ダム)	88~90	市川和夫	28科747種	「小鹿野町の鱗翅目(蛾類)」(1996)
大滝村(滝沢ダム)	90~92	市川和夫	31科767種	「滝沢ダム水没地域とその周辺の鱗翅目」(1995)
横瀬町(県民の森)	92~94	利根川雅実ら	22科340種	「県民の森採集調査全記録」(1997)

(2) 中部・西部

地域名	調査年	調査担当者	記録種数	報告文書名
寄居町	78~81	吉田文作※	25科389種	「寄居町の自然・・・動物編・寄居町の蛾類」(1981)
所沢市(三ヶ島)	1983	市川和夫ら	22科262種	「所沢市三ヶ島の昆虫調査報告」(1984)
所沢市(三ヶ島)	86~87	伴野英雄	28科419種	「早稲田大学所沢キャンパス昆虫調査報告」(1989)
目高市	83~90	市川和夫	32科552種	「埼玉県入間郡目高町の蛾類」(1992)
入間市(仏子)	1989	井上 寛※	28科625種	「加治丘陵(入間市)の蛾類」(1990)
小川町	92~95	萩原 昇ら	20科321種	「小川町の蛾類調査報告(仮目録)」

(3) 東部・南部

地域名	調査年	調査担当者	記録種数	報告文書名
草加市周辺	81~84	神部正博ら	25科213種	「草加市とその周辺の蛾類」(1996)
久喜市	84~87	萩原 昇ら※	25科241種	「久喜市の鱗翅類」(1988)
県東部地域	84~88	萩原 昇ら※	33科463種	「埼玉県東部の蛾類」(1994-1995)
北本市	85~92	市川和夫ら	31科455種	「北本市の蛾類」(1995)
浦和市三室	1988	利根川雅実※	14科134種	「浦和市三室で採集した蛾(2)」(1996)
戸田市	86~87	市川和夫	18科158種	「戸田市動物誌・戸田市の鱗翅類」(1989)
戸田市(道満)	1995	萩原 昇ら	16科151種	「荒川第一調節池付近の陸性昆虫」(1996)

3. 埼玉県の蛾類 (科別種数・・・動物誌との比較)

科名	科別種数	動物誌種数	追加種数
コウモリガ上科			1
コウモリガ科	3	2	
マグリガ上科			5
マグリガ科	11	6	
ボクトウガ上科			1
ボクトウガ科	4	3	
ハマキガ上科			138
ハマキガ科	166	30	
ホソハマキガ科	6	4	
ヒロズコガ上科			7
ミノガ科	5	4	
ヒロズコガ科	13	7	
ホソガ科	2	2	
スガ上科			18
スガ科	17	5	
ホソハマキモドキガ科	5		
ササベリガ科	1		
スカシバガ上科			8
スカシバガ科	16	5	
ハマキモドキガ科	2	5	
キバガ上科			28
マルハキバガ科	20	9	
ニセマイコガ科	3		
ヒロバキバガ科	1	2	
クサモグリガ科	1		
ツツミノガ科	1	1	
キヌバコガ科	1		
カザリバガ科	5		
ヒゲナガキバガ科	4		
キバガ科	14	5	
		(科名変更)5	
シンクイガ上科			2
ニジュウシトリバガ科	1	1	
シンクイガ科	2		
マダラガ上科			12
マダラガ科	10	8	
セミヤドリガ科	2		
イラガ科	17	9	

科名	科別種数	動物誌種数	追加種数
メイガ上科			171
セセリモドキ科	1	1	
マドカ科	7	5	
メイガ科	323	154	
トリバガ上科			6
トリバガ科	10	4	
シャクガ上科			160
カギバガ科	21	21	
オオカギバガ科	2		
トガリバガ科	26	23	
シャクガ科	503	349	
ツバメガ科	1	1	
アゲハモドキガ科	3	1	
フタオガ科	5	6	
イカリモンガ上科			0
イカリモンガ科	1	1	
カイコガ上科			5
カレハガ科	15	13	
オビガ科	1	1	
カイコガ科	4	2	
イボタガ科	1	1	
ヤママユガ科	9	8	
スズメガ上科			2
スズメガ科	40	38	
シャチホコガ上科			6
シャチホコガ科	97	91	
ヤガ上科			229
ドクガ科	33	25	
ヒトリガ科	52	40	
コブガ科	13	4	
カノコガ科	2	2	
ヤガ科	693	493	
トラガ科	5	5	
52科	2201種	1402種	799種

(はぎわら のぼる)

参加者：当日名簿順 敬称略

川崎 悦子, 金井 節博, 枝 恵太郎, 長畑 直和, 築比地 秀夫, 鷺尾 洋一, 桜田 敦, 水上 久雄, 中村 英夫, 松田 邦雄, 宮川 佳子, 石川 和宏, 石川 信子, 石川 由香里, 田中 淑喬, 町島 佳幸, 岸田 泰則, 松井 秀俊, 中尾 健一郎, 猪又 敏男, 木村 春夫, 星野 正博, 山本 晃, 山内 幹雄, 池田 真澄, 萩原 昇, 倉地 正, 永見 宏二, 福田 晴男, 工藤 広悦, 成富 安信, 加藤 雅之, 杉 繁郎, 松浦 寛子, 手束 喜洋, 松本 克臣, 池田 勝義, 川上 多岐理, 川上 洋一, 綱島 延明, 岡田 秀紀,

森中 定治, 後藤 匡啓, 加藤 儀一, 矢野 高広, 高橋 真弓, 大塚 市郎, 高家 博成, 伊藤 貞雄, 阿部 功, 瀬田 和明, 真中 二郎, 小堀 文彦, 伊藤 哲夫, 大島 良美, 諸星 重明, 宇成 和輝, 近藤, 矢島 嘉和, 志賀 一朗, 保坂 満, 菅井 忠雄, 牧林 功, 松葉 光豊, 藤平 暁, 岩野 秀俊, 中島 秀雄, 飯塚 新真, 久保 快哉, 神部 正博, 中村 康弘, 柳田 慶浩, 大塚 一壽, 木暮 翠, 白川 邦臣, 白川 世智子, 田中 剛, 麻生 紀章, 齊藤 太増夫, 岩本 吉也, 増山 克男, 田中 拓 (82名)

北本市で採集された
アオマダラタマムシ
小堀文彦



図 北本市産アオマダラタマムシ

Nipponobuprestis amabilis
アオマダラタマムシは、緑色を中心とした綺麗なタマムシである。体躯もほどよく大きい、非常に人の目を引く甲虫といえる。しかし、埼玉県内における本種の記録は、わずかに大宮市と寄居町にあるのみである(西山, 1998)。筆者は、下記のように北本市で採集された本種を所持しているの、報告する。当該個体は左

後脚の脛節より先端部が欠損しているが、これは後述のように、採集以前に失われたと思われるものである。

アオマダラタマムシ

Nipponobuprestis amabilis 1ex. (図)

採集日時：1999年6月2日

採集場所：埼玉県北本市石戸(北本西中学校校庭)

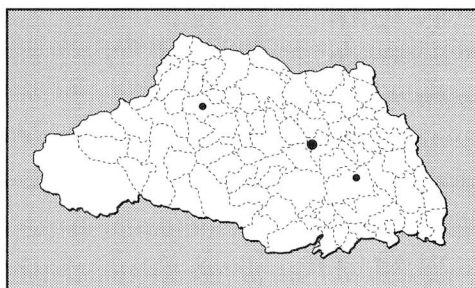
採集者：小堀貴文

採集者によると、採集時の状況は次のようであ

る。校庭の砂場に落ちている本種を、採集者の同級生がイモムシだと思い、砂をかけていじめていた。それを見かけた採集者が、「これこれ、いじめてはいけないよ。これはイモムシではなくてタマムシという虫なのだよ。」と、昔話の浦島太郎よろしくもらい受けてきたのである。

砂場の周囲の校庭には、ソメイヨシノの大木が何本も植栽されており、発生木はそれらの内のいずれかと思われた。

報告者は二匹目のドジョウを得るべく、数日後に同地を訪れたが、残念ながら追加個体は得られなかった。



埼玉県内におけるアオマダラタマムシの既知産地(小さい黒丸)と今回の記録地点(大きい黒丸)

参考文献

西山 明 (1998) : 埼玉県昆虫誌Ⅲ. p.189

(こぼり) ふみひこ 〒364-0024 北本市
石戸 5-263-1 センチュリー-北本高尾 103)

本の紹介

「甲虫の世界」

地球上で最も繁栄する生きもの

A.V.エヴァンス・C.L.ベラミー 著
加藤義臣・廣木眞達 訳
小原嘉明 監修

表題の本が刊行された。判型が23.5×28センチというやや大型の本である。著者紹介によるとエヴァンスはロスアンゼルス自然史博物館の昆虫園の主任で、コガネムシが専門。ベラミーはトランスバール博物館の甲虫類部門の主任で、タマムシが専門だという。

大きく扱われたカラーの図がページをめくるたびに目の中に飛び込んできて、甲虫好きには刺激的な構成となっている。登場する甲虫達の構成は、標本写真はもとより、琥珀に閉じこめられた甲虫の化石、生態写真、甲虫を使用した工芸品などなど、世界中の珍しい形のものや、美しい色彩のものがちりばめられている。恐らく著者の好みだと思うが、タマムシとコガネムシには特に多くの写真が使われている。

標本写真の背景の設定など、写真の撮り方は、

我々日本人の感覚とは違った感性を感じさせるものになっている。また、昨今日本で出版される図鑑には、職人技とも言える展足への執着が見られるが、この本の標本には、おおらかさというか、一種の潔ささえ感じさせるものがある。手足をのびのびと上げたクワガタ、触角を左右に伸ばしているカミキリなどは、収蔵場所が最大の悩みである私にとっては、羨ましかぎりである。また、小さめの甲虫はなるべく台紙に貼り付けるようにしている私にとっては、ハナカミキリの鞘翅にもナイロンヘッドがずぶっとさされているのには驚いた。

文章は、甲虫に深い知識と愛情を持つ著者であろうと推察される内容となっている。訳者の加藤義臣氏も書かれているが、本書は甲虫についてのみ書かれているわけではなく、自然を取り巻く現状、諸問題に主眼が置かれていて、単に甲虫の賛歌に終わることなく、人間活動についても考えさせてくれる。言及されている内容が多岐に渡るため、紹介しきれないので目次を再録すると次のようである。

- 第1章 甲虫の種類
- 第2章 甲虫の設計図
- 第3章 甲虫—今昔
- 第4章 これこそ甲虫の生活
- 第5章 甲虫と人間
- 第6章 ビートルフィリア

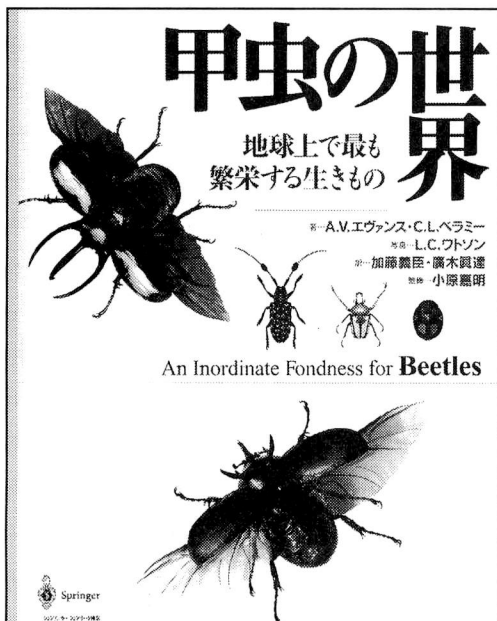
また、付録には甲虫の重要なコレクションを収蔵した世界の博物館・研究施設と甲虫の学会の一覧があり、日本では国立博物館及び日本甲虫学会と日本鞘翅目学会が掲載されている。写真を眺めた後に、じっくりと読み込んでみたくなる本であることは間違いない。

体裁：上製本 201ページ ISBN 4-431-70838-3
発行：2000年4月7日
発行所：シュプリンガー・

フェアラーク東京株式会社

価格：6000円＋税

(紹介者：小堀 文彦)



【 訂 正 】

- 『寄せ蛾記』 9 2号 pp. 2729-2732 松木・喜多：埼玉県都幾川産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘数の変異について

p.2729 下から9行目 埼玉県東松山市嵐山町都幾川 → 埼玉県嵐山町都幾川
同報文の裏表紙のタイトル

埼玉県都幾川村産ホンサナエ… → 埼玉県都幾川産ホンサナエ…

- 『寄せ蛾記』 9 4号 p. 2848 牧林功：見沼の『蝶の施餓鬼』について

p. 2849	1行目	「蝶の施餓鬼」なつ	「蝶の施餓鬼」なる
p. "	18行目	小何町	江南町
p. "	19行目	ついて違い	間違い
p. "	25行目	8月1日になら	8月1日なら
p. 2853	7行目	蝶2種	蝶21種
p. 2853	8行目	として揚げる	として掲げる

寄せ蛾記 96号 目次

内田 正吉	：埼玉県のと地および丘陵地における マツムシの生息環境について	2889-2893
和田 一郎	：埼玉県におけるササキリモドキ類の追加記録	2894
和田 一郎	：灯火に集まるショウリョウバッタモドキ	2894
阿部 功	：両神村の蝶の採集記録 2895	
石蔵 拓	：埼玉県における 甲虫類(カミキリを除く)の記録	2896-2901
阿部 功	：雲取山にてクロキノカワゴミムシを採集	2901
豊田 浩二	：埼玉県から新たに記録される甲虫類(1)	2902-2910
豊田 浩二	：オオヨツボシゴミムシ追捕	2911
豊田 浩二	：ヤノクチナガオオアブラムシの記録	2911
豊田 浩二	：埼玉県内のキカマキリモドキの記録	2912
豊田 浩二	：ホンドリヒロオビモンシデムシを大滝村で採集	2913
豊田 浩二	：大滝村のジョウザンナガハナアブ	2914
伊東 憲正	：行田市でツマグロキチョウを採集	2914
埼玉昆虫談話会	：昆虫誌プラス(4)	2915-2919

特集 埼玉昆虫談話会・日本鱗翅学会関東支部・日本蛾類学会共催

1999年秋の集い 報告 2920-2928

小堀 文彦	：緒言	2920
桜田 敦	：「秋の集い」に参加して	2920
	プログラム	2921

講演要旨再録

牧林 功	：「埼玉県昆虫誌」はどのようにしてできたか . 2921
星野 正博	：埼玉県の蝶類 2922-2925
萩原 昇	：埼玉県の蛾類 2926-2927
	参加者 一覧 2928

小堀文彦	：北本市で採集されたアオマダラタママムシ	2928
	本の紹介 『甲虫の世界』(紹介者 小堀文彦)	2929
	訂正2件	2930
	会報	2930
	編集後記	2930